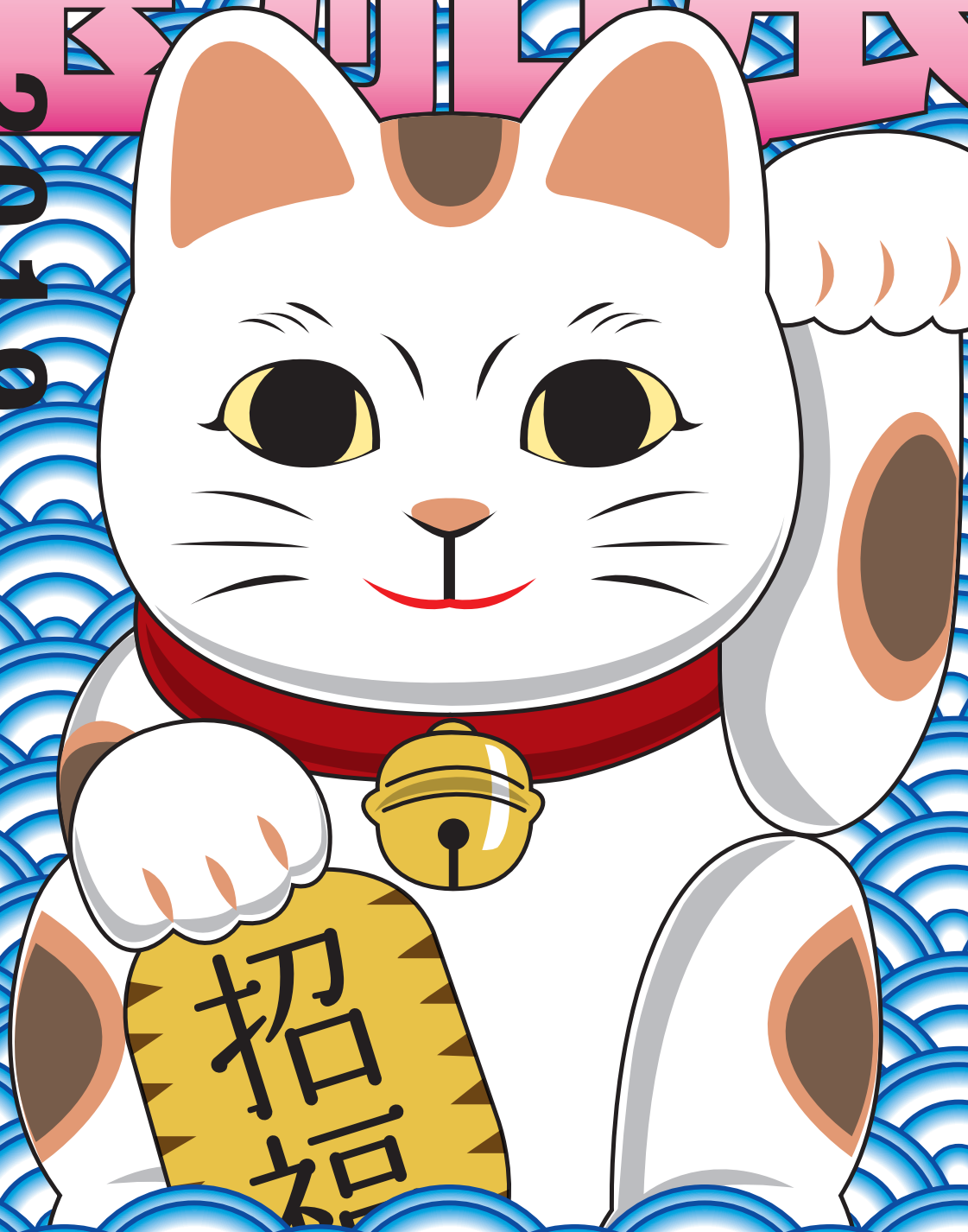
Saitama Muse Forum

年賀展

2019@MOMAS



オープンスタジオ 創造の海へ！

2019
1/16 WED ▷ 1/20 SUN

埼玉県立近代美術館 地階・一般展示室1
10:00～17:30（最終日は15:00まで）
主催：SMF／埼玉県立近代美術館　観覧料無料
◉ギャラリートーク&ラウンドテーブル 1月19日（土）13:00～17:00 @一般展示室1

SMF
Saitama Muse Forum

そこは珊瑚礁の海だった

海という、地球の７割を占めるほどに広大な広がりのなかで、熱帯の珊瑚礁はそのわずか 0.1% の面積だといいます。そこに、全海水魚の４分の１もの種類の魚が住んでいるのは、それだけ豊かな生態系がはぐくまれている証。これは、NHKで放送していた「プラネット・アース」という番組で語られていた事です。僕は今回の宝船展を見て、突飛な比喩かもしれませんが、そんな珊瑚礁の海のような印象を受けたのです。

少し説明が必要でしょう。今回の宝船展のテーマは、「オープンスタジオ　想像の海へ!」です。ギャラリートークの日、そのことを意識せずに会場に足を踏み入れたのですが、最初に目に入った作品が矢花さんと子どもたちによる巨大な壁画でした。地下の展示室ということも関係していたのかもしれませんが、天井の高い空間の天井ぎりぎりの高さに掲げられていたことで、車椅子の僕にとっては海中から水面を見上げるような感覚になっていました。そこに繰り広げられていた色彩に満ちた子どもたちや花や生き物たちの浮遊するようす、空間を埋める珊瑚の産卵のような点々…。ここで僕の感覚の中に珊瑚礁が準備されてしまったようです。

続いてのソナンタさんの「海の世界」という作品について、「なぜ海なのですか?」という質問をしてしまった僕は、「テーマが海ですから」というお答えに、自分を恥じました。それ以降、「海」を意識するように見てまわると、先程の珊瑚礁のイメージが存在感を増してきたのです。ここは、ただの海ではない、想像の海。新たな命が生まれ、多様な生態系を支える珊瑚礁の海なのではないか。

車椅子で、流れるように移動していたので、水中を泳ぐ感覚と近かったせいかもしれません。壁面を飾る大小の作品は魚たちを、床から立ち上がる作品は海藻類を、鮮やかな色の座面をもった椅子はイソギンチャクを連想させます。ウルスの皆さんのオブジェは、立ち上がる岩礁か、はたまた沈没船か。ただ、そういった形態上のアナロジーを超えて、ここの作品群が相互関係しながら生み出している全体に注目すべきだと気付きはじめるのです。

たとえば、中村隆さんのスケッチが、色とりどりの魚が列をなすように壁面を泳いでいます。すると、おとなりの柴山さんのスピーカーたちが、その魚たちの列を横断して音を出しています。普通、美術館の壁面というのは、額に入って回りの空間から独立し、作家の個性･作品性を保証された作品が整列しているものでしょう。そういった古典的（?）な美術を鑑賞する制度が、ここでは軽々と乗り越えられて、重なりあい、侵略しあい、作品の境界は融け合って展示室全体が珊瑚礁のような豊饒な世界を造っている…。

さらに、ここが珊瑚礁に見えたのは、海全体との面積比とも関係するのですが、「こんなところ、めったにない」と感じたからです。僕らが日常生活している現代都市のなかで、こんなに自由な空間は、超レア・ケースなのではないでしょうか。県立美術館という公の場所でありながら、世の中の権威や、ジャンルや、年齢性別や商業主義からも自由。特定の共同体という訳でもなく、主義主張を一にするでもなく、お互いを尊重しながら干渉する訳でもなく、自分の表現を精一杯生きている。珊瑚礁の生態系が絶妙なバランスで成り立っているように、上からの力ではなく相互の微調整の総体として成り立っている空気感とでもいうような…。これこそ、SMFという運動体が時間をかけて培ってきた宝なのかもしれません。

奥の暗い部屋は、大陸棚の崖の下。みゃうかさんの月は、海の環境に鼓動を与える潮の満ち引きを支配しています。すると床に開いた井戸は、江戸の裏路地の共同井戸というより、海底火山の噴火口に見えてきます。その噴火口、あるいはカルデラの縁に三々五々集まって、中を覗き込みながらラウンドテーブルが行われました。噴火口から噴き出してくるのは、「夢のシート」です。地中からの熱によって有機物が生命体へと変貌するように、皆さんの夢が自由な会話の中から新しいアートへと動き出す…。暗闇の中、参加者の視線は「夢のシート」に向けられて、お互いに面と向かっての対話でなかったため、自由に意見がつぶやけたのもよかったと思います。ギャラリートークより、発想の原点が感じられる場面もありました。壁の内側に散りばめられていたルーローの三角形は、幾何学図形なのにどこか有機的なものへの橋渡しをするようで、静から動へ、夢が転がりはじめてアートになる、ロータリーエンジンの比喩にも見えました。

珊瑚礁にせよ海底火山にせよ、生々流転のエネルギーの源はビッグバンにあって、それが宇宙という場を突き動かしているそうです。この宝船展のような場でこそ生かされる、我々の内なる表現への希求が確かにあることを実感しました。

SMF 宝船展 2019@MOMAS に参加して　石﨑幸治

参加した感想

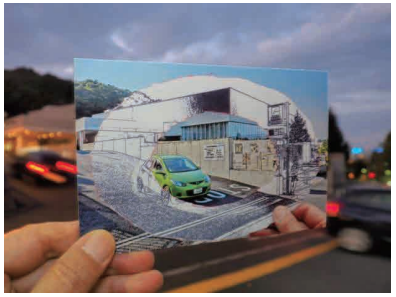
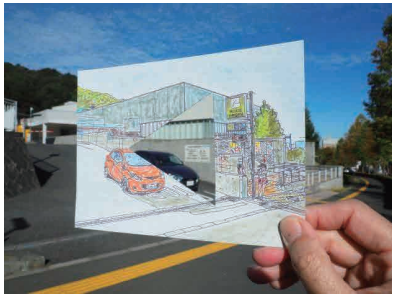
昨年の宝船展を拝見したらいろいろな分野の面白い作品展示がありました。そして何よりも出品者自身が楽しんでいる様子が伝わって来ました。私も参加したいという思いが叶って、今年の宝船展に出品させていただきました。

出品に際して何か審査があるのかなと思っていたら出品者アンケートを提出したらすぐに許可されて拍子抜けしました。誰でも参加できるこのゆるさ加減がいいですね。

反省会で「来場者から作品について質問を受けたときに答えられなかった」という意見がありました。他人の作品のことは分からないのは当たり前です。「私も分からないです。一緒に考えましょう」と答えれば良いのですという主催者の意見に笑ってしまった。

こんなに自由で出品者と来場者が交流して一体になる展覧会は他にはありません。来年も是非参加したいし、皆さんの元気な顔を見たいです。1 月の同時期に地下の展示室に借り手が現れないように願っています。

出品番号　01 番　実写錯視画像

作品の解説

デジタルカメラの出現とインターネットの普及で写真を撮影して発表するということが大きく変わりました。フィルムカメラは撮影しても現像しなければ画像を見ることができません。デジタルカメラは撮影後すぐにモニターで確認することができます。写っていなかったという失敗がなくなりました。

それからカメラが進歩して難しい操作をしなくてもシャッターボタンを押せば誰でも綺麗な写真を撮ることが可能になりました。撮影を専門にするカメラマンが段々必要なくなった。またインターネットの普及で紙媒体の印刷物が減ってカメラマンという職業が専門職でなくなったと思います。

綺麗に写るのは当たり前の時代に独自の写真を撮るためにはどうしたら良いのでしょうか。人間が踏み入れていない未開の地に行って撮影する。あるいは花が満開や紅葉の時期に撮影する。どちらも撮影をするのは大変ですが、その場に立てば誰でも同じような写真が撮れるように思います。

見慣れた風景でも撮影者の考え抜いた技法で独自の視点の風景写真が撮れないだろうか。今回は風景の一部を絵や写真にしたものを現場に戻って実写する方法で私の風景写真を作りました。今後は銀座四丁目交差点、浅草寺の雷門や皇居の二重橋など東京の名所をこの技法で撮影するつもりです。

出品番号　02 番　錯覚変幻花器

作品解説

陶芸は自分で作った料理を気に入った食器で食べたかったので 26 年前に始めました。市の施設の講座に参加して月 2 回の制作を続けました。やはり技術は集中的に学ぶ必要があります。自分が満足する食器を作れるようになるまで 10 年も掛かってしまった。

食器の次は造形作品を作りたいと思いました。他の人が作った作品の批評はできますが、自分で作ってみると全く上手くできません。食器と違って用途がないものだから自由な発想で今までに見たことないものを作りたいと願っても作りたい形が思い浮かびません。

先人が作ったものを再現するは技術の伝承と欲しい人がいるから大事なことと思います。でも創造者が誰でも目指す自分の工夫を加えて今の時代でしか作れないものはないだろうか。

作者が思いを込めて作った作品でも、その思いが見る人になかなか伝わらないことがあります。詳しい説明がなくても見る人が不思議に思う立体はないだろうか。一生懸命に考えて見る角度によって全く違う形に見える「立体錯覚陶器」を作りました。老いも若きも段ボール箱の覗き穴を覗いて「あれれ。変だな」と楽しんで下さったようです。

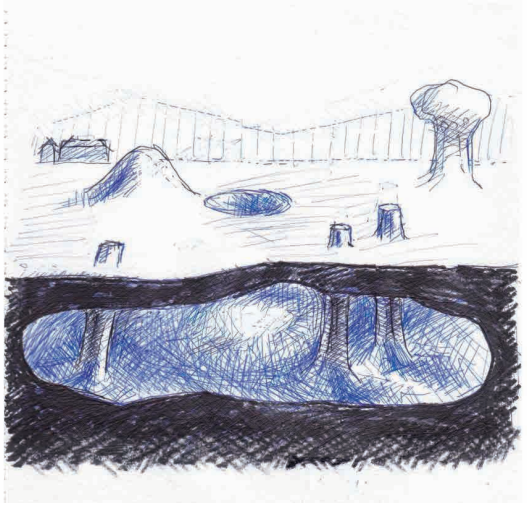
※形は杉原厚吉さんの「立体錯覚」を参考にしました。

NO,3 石上城行　記憶の容 ー舟ー（テラコッタ）　/　大きな河(ドローイング)

今回の宝船展では、テラコッタの作品と合わせてドローイングを展示した。一般的にテラコッタの作品には古色仕上げと呼ばれる時間が経過したような風合いを出す仕上げを施す場合が多いが、微妙なニュアンスを追求するあまり、派手さがない。そのため、慣れていない鑑賞者にとっては、退屈な印象を与えてしまう。よく「彩色をしてみてはどうか？」というアドバイスをいただくが、(挑戦はしたが) あまりうまくいったことがない。そこで最近取り組んでいるのが鮮やかな色使いのドローイングと合わせて展示するというスタイルである。テラコッタ作品の形状とつながる色彩のドローイングを提示することで、想像の幅を広げるきっかけになってほしいと考えている。

今回は船のような形状のテラコッタ作品の借景として青いドローイングを配してみた。船が記憶という時間の海を自在に旅する様が想起されるのではないかと期待している。

「夢のシート」では、2025の万国博覧会（大阪で開催予定）をネタに、立体造形とVR（立体映像）駆使した体験型のアート作品を提案してみた。このアイディアは「モノ（彫刻作品等）」を発表する活動を続けてきた者として新しい表現を模索する思考の経過を示したものである。これまでの彫刻の展示のように設置された「モノ」と寡黙に向き合うのではなく、インタラクティブな要素を加えることで逆に「モノ」の輪郭が見えてくるのではないか？と考えたからだ。最終的にはこの作品を体験することを通じて鑑賞者それぞれが忘れていた自分自身と出会ってほしいと考えている。ただ実現する可能性はほとんどないので、まさに夢の物語ということになるが、もしどこかでチャンスがあればいつか挑戦してみたいと思っている。



最後に「オープンスタジオ」で行われた「ライブ・インスタレーション」に触れておく。この展示が成立した経緯は、助成金を申請する為にこれまでの宝船展になかった要素を加えようという発想から始まったもので、結果的に助成金の申請は叶わなかったが極めて今日的な試みとなったと感じている。

展覧会場に、来場者が様々な素材を使って自由に創作できる状況を設置したことで、創作の成果である「作品」と、創作のプロセスを垣間見ることができる「スタジオ」を同時に体験することが可能となり、ヒトが創造と思考を往還しながら創作活動にいそしむ姿の一端を見ていただくことができた。多くの来場者（アーティストも、それ以外も）が交流しながらライブ感覚で作品を生み出していく様子は、まさに有機的なインスタレーションであり、本展のキャッチフレーズである「創造の海」を提示することができたのではなかと考えている。きわめてアナログなこの試みが、期せずして多様なインタラクションを誘引したことは、今後の展開につながる大きな成果となったと実感している。

出品番号：　5

作家名：　小野養豚ん

作品タイトル：Piglicious

制作年：　2018

作品についての記述：

　養豚農家で育った経験から、豚をモチーフとして創作活動を続けています、小野養豚んです。今回の作品は、” Pig ”と“ Delicious ”をかけた造語 ” Piglicious ” をタイトルとして、「豚は美味しい」という意味を込めています。

　昨今では豚のペットの人気が急上昇しています。食肉とされず愛でられ幸せに暮らす豚ちゃんがいる一方、生まれてから半年の間に太った豚さんの仲間がぎゅうぎゅうにいる檻に入れられ、ストレスなどがある中、90〜110kg の体重増加をして気づいたら出荷場にいて、さばかれていく食肉用の豚さんがいます。

　食肉の豚さんが飼育され出荷されていくことを見てきた作者にとっては、まるでペットの豚ちゃんが夢の中にいる存在です。この作品は、夢の中にいるようなペットとして愛でられ、もふもふの愛らしい豚さんを見立て制作しました。

宝船展 2019

●会期 2019 年 1 月 16 日(水)〜20 日(日)　●会場　埼玉県立近代美術館 地階一般展示室

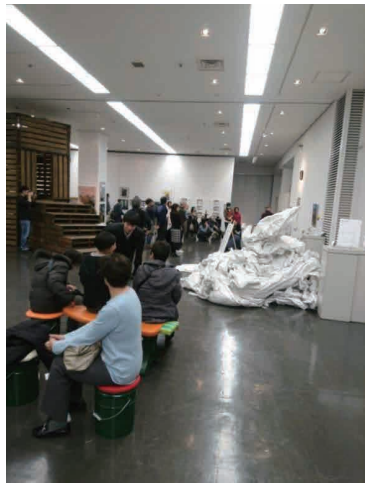
「加藤こどもの造形教室」　出品番号 6

……子どもの造形・アートのタネ、かも……

何を作ってもいい。
　何を使ってもいい。
　　いつまで作ってもいい。
　　　作り方に困ったらヒントを少し。
　　　　そうやって作ったアートのタネ、みたいな工作。

「描くの作るの大好き」をエネルギーにして
　　たくさんの子どもたちがこの道を通って来た。
　　　いつかアートにつながるといいね。
　　　　だけど全員アーティストにはなれないんだなぁ…。
　　　　　…でもアーティストにならなくったって、それもいい。
　　　　　　大事なことはいっぱい学べる。
　　　　　　　夢中になったしあわせな時間を
　　　　　　　　たくさん蓄えて大人になろう。
　　　　　　　　　その時間が糧となり、いろんな花が開くといいな。

「加藤こどもの造形教室」加藤典子



■「マイタウンジオラマ」小 3 女子

■「海辺のジオラマ」小 6 女子

■「いろいろかけハンガー」小 3 女子

■「カラフルパーク」小 3 女子

■「磁石家族のお家とお庭」小 1 女子

■「ドングリたちのドングリ町」（創作絵本）小 4 女子

■「落とし穴の巨大迷路」小 3 男子

■「スターシップ」小 4 女子

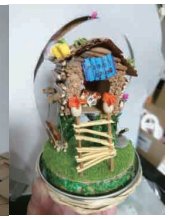
■「フルーツツリーボトル」小 3 女子

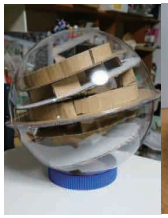
■「森のたびをするふくろう」小 3 女子

■「段々ハウス」小 2 女子

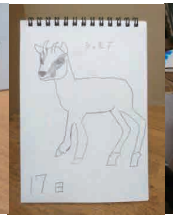
■「剣士なりきりセット」小 4 男子

■「盆栽風オブジェ」小 3 男子


■「プーさんハウスボトル」中 2 女子


■「球体迷路」小 4 男子

■「花束ボトル」小 3 女子


■「日めくりカレンダー」小 4 男子

■「海辺のジオラマ」小 4 女子

■「レモネード国の鳥」小 3 女子

■「スライムホッケーゲーム」小 3 男子

■「大きな 2 段迷路」小 2 女子

■「ひかる工作」小 1 男子

■「森のおくストーリー」制作時小 6 女子

■「勇者のつもりセット」小 4 男子

■「ドラムセット貯金箱」小 5 女子

■「ぶどうクッション」小 6 女子

■「マイタウンジオラマ」小 3 女子

■「スネークキューブパズル」小 4 女子

宝船展 2019

●会期 2019 年 1 月 16 日(水)～20 日(日)　●会場　埼玉県立近代美術館 地階一般展示室

「クシャモゾ・オノマトペ」

加藤典子　神尾真弓　映像制作：橘敏輝

参加型インスタレーション作品　2018～2019 制作　作家蔵

出品番号 7

ギュッギュッ	雪
ザクザク	霜柱
パリパリ	氷
パキパキ	ドングリ
キシキシ	イス
ワシャワシャ	紙

つかむ、踏む、つぶす、ゆらす、丸める…
身体で奏でる音色とリズム…。様々な情景がよみがえる。
ふとした場所で見つけたひそやかな音、感触にときめいたあの幼いころ。
日常に潜む非日常から楽しさを発見する才能は、
生まれた時から全ての人が持っていた。

あの楽しさと最後に会ったのはいつだっけ？……

※「オノマトペ」には『擬音語』と『擬態語』がある。
『擬音語』とは物が発する音や声を真似て字句で描写した語句のこと。
「サラサラ」「ワンワン」「ガシャーン」など。
『擬態語』とは状態や心情などを表した言葉のこと。
「ドキドキ」「ニコニコ」「キラキラ」など。

■参加型インスタレーション内容

床に直接、クシャクシャと大まかにつぶした大量の紙を山のように積み上げておく。
紙の山は 6 畳ほどの大きさの紙を何枚も使用して形作る。使用した紙は模造紙を 9 枚ずつ繋ぎ合わせたものを 37 枚用意した。模造紙の合計は 333 枚。

参加者は手や足を使って好きなように紙の山を押しつぶしたり、ひねったり曲げたり、尖らせたり凹ませたりしながら、その時に発生する音を楽しみつつ、自由に紙の塊を変形させていく。変化する紙の彫刻とも言える。ただし、紙はやぶかないこと。
そうやって楽しんだ後、参加者はつぶした時刻、発生した音がどう聞こえたかを言葉にして、手を加えた紙の部分に書き込んでもらう。
小さな子どもは紙と戯れるだけでもよい。

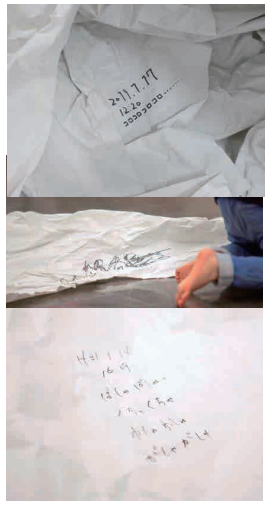
徐々に作品は縮んで、参加者の感じ取った「オノマトペ」がたくさん書き込まれているというのが最終形態となる。作品の変化を、映像作品としてアーカイブする。
アーカイブ映像は 6 月 YouTube で公開予定。【検索ワード】クシャモゾ・オノマトペ

「クシャモゾ・オノマトペ」

加藤典子　神尾真弓　映像制作：橘敏輝

参加型インスタレーション作品　2018～2019 制作　作家蔵

開始



最終

宝船展 2019

●会期 2019 年 1 月 16 日(水)～20 日(日)　●会場　埼玉県立近代美術館 地階一般展示室

「美を逆なで」

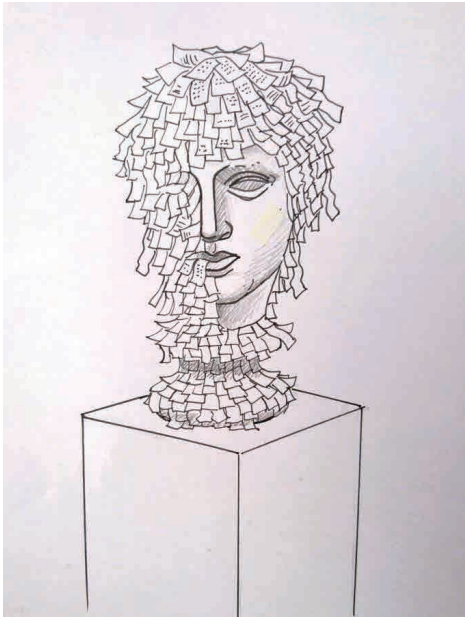
加藤典子

参加型インスタレーション作品　出品番号 8

来場者に、自分の持っている
「たわいもない日常の切れ端であるレシート」を
西洋美の象徴とも言える石膏像に貼ってもらう。

あなたの日常が、いわゆる「美」を侵食し
作品の一部になる。

その意表を突く出会いは
新たな価値観を表す、とともに可笑しみも誘い
「美」とはなにかを考えるきっかけとなる、はず。



「美を逆なで」

加藤典子

参加型インスタレーション作品

９. 久保田ひかる　『海』

私は今回、『海』をテーマに２つの異なる海を描きました。
１つは、あたたかくつめたい海です。
この絵は描いていてとても気持ちが良かったことを憶えています。あたたかいピンク色や黄色を重ねていき、線の太さや長短で好きに描きました。
私は海にほとんど行ったことがありません。ですから、今回描いた海は私の記憶やイメージの集合体だと考えています。あたたかくてつめたくて、こわい。でも、やさしい。ずっと見ているとなんだか泣きたくなるような、何故だかなつかしさも感じるような、それを描きたかったのです。
空の色を映して、うねりながら表情を変えていくその姿を私は思い浮かべながら手を動かしました。
私は海に潜ったこともほとんどありません。ですから、海に潜り、水中から見る海面に太陽のひかりが透けたときの色を私は実のところ知りません。それはどんな色なのだろう、その色の名前や、それを見ているときの私の気持ちを知りたい。その、不安や高揚を少しでも自らの内で消化し描きたかったのです。

この絵は、映画『Blue Mind』という海外の映画から着想を得て描きました。
この映画には『海』という要素がたくさん出てきます。その海や、作中で使われた『青』がとてもうつくしく、そして主人公の少女との交わりかたがとても印象的でした。硬質な建物や映像と、透明な水との組み合わせがなんとも奇妙な生活感の無さ、現実味の無さを演出しているのも素敵だと感じます。それを自分の感じたままに描いたのがこの絵です。また、私は主人公の少女が見た『海』を描いてみたかったのです。彼女が見た、彼女が感じた、色や温度、音、水の感触。そういうものを描きたくなりました。
陽の光が透けた海面や、刻々と変わりゆく水の色、暗く恐ろしささえ感じる深い海底の色。その冷たさや、水の音、肌を撫でていく水のやわらかさ。それを想像しながら書くのは、とても楽しく素敵な時間でした。まるで、私自身が彼女が泳いだ『海』にいるようでした。

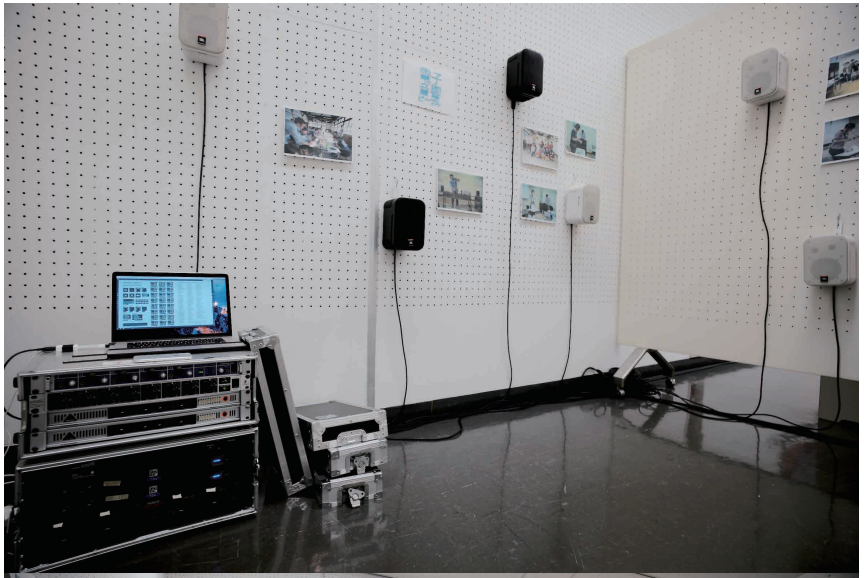
10. 柴山拓郎

Imaginary Sphere (Sound Installation)

designed by Takuro Shibayama @ ZKM in 2017–2018
system designed by Hidefumi Ohmura & Takayuki Hamano
produced at ZKM | Center for Art and Media Karlsruhe

この作品は 2015年から2016年にかけて、SMFと電子音響ピープルプロジェクトで実施したワークショップの85名の参加者の皆さんの完成作品を用いて作られています。それぞれの作品を構成している音の断片は、このコンピュータプログラムによって、より複雑性の高い状態へと変調され、複数のスピーカーにばらばらに解体され、空間投影されます。そのプロセスは、参加者の皆さんの作品が多層的に重なり合いながら、時間と空間の双方に淡く滲みを作っていくこととも捉えられます。また、この作品の大きな特徴は「この作品の作者はだれなのか？」という点が抽象化されている点です。人間の芸術的な活動の開始は、20,000〜30,000年前だと考えられます。だとすると、現在の私達が当たり前として受け止めている、芸術の「創作-作品-受容」といった形は、長い歴史の中でのごくわずかな期間に確立した慣習に過ぎないともいえるでしょう。このような現在の慣習化された環境下で、社会的に構築される芸術の価値形成に係わる社会戦略と、創作そのものがどういった関係なのだろうか、ということについて大きく疑問を持ったことが、こうした作品（プロジェクト）を作るきっかけになっています。そしてそのきっかけは、ほかでもない2007年からはじまったSMFでの活動によって得られました。創造性を多様性に求めるとき、私自身、作家として自分にできることと、多様性の高いフィールドを広めていくことが、ある意味相反した方向性を持っているということに気づかされ、試行錯誤を重ねながら活動を継続しているところです。

この作品は、ドイツのカールスルーエ・メディアアートセンター (ZKM, Zentrum für Kunst und Medien Karlsruhe) で、音楽バージョンとサウンドインスタレーションバージョンとに分けて作られ、2018年6月末に、双方が同センターで初演・展示されました。



zkm karlsruhe
DENSHI ONKYO PEOPLE PROJECT 電子音響ピープル
SMF Saitama Music Forum

11　清水 和乃　『Sailing』

　昨年に続き今回も参加することが出来て、とても楽しかったです。
昔、ローリングストーンズの「Sailing」という曲を聞いた時は。若者が人生の門出に出発するという意味の歌と勝手に解釈していました。ですが最近あらためて Web で検索して歌詞をみたとろ、死出の旅への出発という意味でたいへん驚きました。
　終活に向かい始めた私にとってはぴったりの歌です。
　この歌に寄せたイメージの作品を作ってみました。多くの皆さんに見ていただき感謝しております。

31　宮野内喜美　　『浮遊する』

　今まで集めたものを、透明感のある、パネルに並べてみました。
　形の面白さの組み合わせです。
たくさんの方に見ていただき、楽しかったです。

12　シミズフローラルデザインスクール　『記憶』

　各自、雑誌などの切り抜きからの、自分のイメージに合わせたコラージをパネルに作り、さらにその作品から、感じられるものを、色で表現し、合わせて、一つの作品にしました。作った人の選んだ色と鑑賞した人の思い浮かべる色の違いが面白かったでした。
　参加者の全部の作品を４枚のパネルに並べて展示しました。
　普段は作品を作っても、なかなか他の人には見ていただくことがありませんでしたが、多くの方に見ていただき感謝しております。

「 沃土プランによる 沃土プラント」

“野良の藝術へ向けた前哨”

アートの機能回復

廃棄物を彫刻としたジャンクアートが２０世紀美術史で語られ久しいが、これに限定せずとも、アート自体もまた新たな廃物の増産とは言えまいか。今日、私たちを取り巻く社会において効率を求められるが故に、放射能や農薬、化学肥料、遺伝子組換などが先行し、事情はより深刻となっている。

今回の作品では、閉鎖した倉庫に残されたパレットを原点のプラント(plantの原意-植物を育てる意味としての装置)として組み立て、農の役割に転化させる。その内部空間には、内壁に縄文思考を喚起させる札が貼られ、三苗の百姓が乱舞した。

この展示の後、作品はファームに持ち込まれ、実際に堆肥作りが開始されることで社会的働きかけをもってアートの機能回復・農の復権を図る。

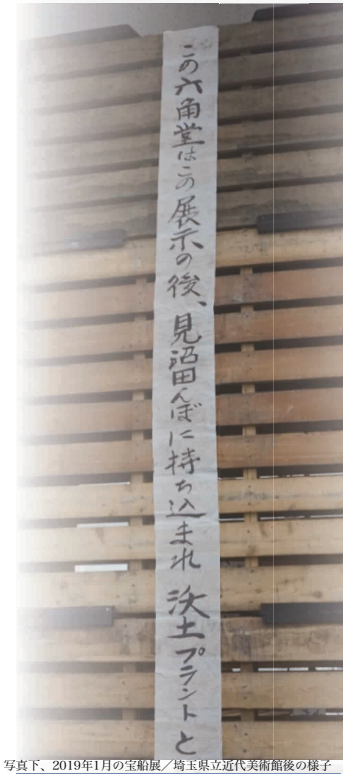
社会芸術 /ユニット・ウルス　沃土プラン

Email:syakaigeijyutu@icloud.com　https://artngo16.wixsite.com/socialart

安部大雅、渋田廣文、蒼浩人、 長谷川千賀子、 森山哲和、 吉田富久一

協力

考古造形研究所

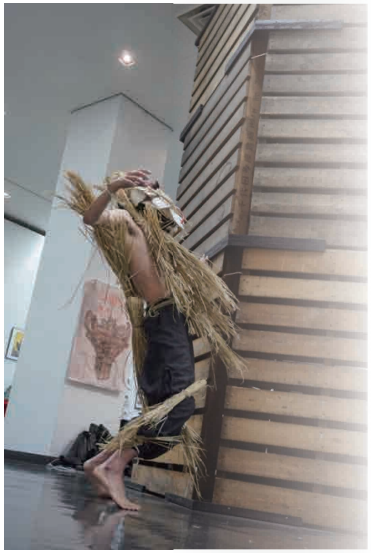


写真下、2019年1月の宝船展／埼玉県立近代美術館後の様子

2017年、ファーム・インさぎ山(さいたま市緑区)にて煙突オブジェを用い、もみ殻燻炭やメタセコイアの炭を焼く様子　写真：石崎幸治)

札のメッセージ　　**縄文思考／蕩尽について**

蕩尽は、現在は財産を蓄積せず使い果たしてしまう意味に使われるが、使い尽くすことで、ちゃんと循環させる意味をもつ。無償の贈与であり「おもてなし」である。社会における資本の蓄積と次元を違え存在する。



2019年1月19,20日　パフォーマンス／蒼浩人

農が都市をささえている

埼玉県見沼・三室での展開について

見沼は古来より御沼とも謳われ讃えられる湖沼・湿地であり、江戸時代の新田開発後は広大な穀倉地となり都市(江戸)の胃袋をささえてきた。同時に豪雨の際には遊水池として江戸・東京の水害を緩和の役割をはたした。見沼三原則以来の無住の歯止めがあり、現在緑地化計画法に守られているものの、水田は僅か４パーセントまでに減少。しかし、その緑地に将来を見据えれば、人口減少(100年後現在の3分の1に減少 内閣府統計資料)に予想される都市の空洞化のなかで、残された人は緑地へと向かい、本来の農に目覚め、安全な食の復権を求めるのではないだろうか。

農が都市を支えている。都市の中に農地を内包するさいたま市ならではのテーマ提案が「沃土」。今回のねらいである。

プラントとは、一般にイメージされる工場施設としてではなく、そもそもが農における沃土づくりから発した言葉である。つまり、テクノロジーの発展の原点に農がある。

人間は宇宙に飛び立とうとも、大地に根ざし自然の中で連綿と支え合う様々な命の中にあって、自然の一部としてしか生きえない。生命のボーダーとしての警告がある。

近年各学会等で黒ボク土に人為の炭の痕跡が認められ報告された。縄文以来、一万数千年の長きにわたって見沼の畔、三室に住んだ人々は田畑を耕し、野焼きや堆肥を施し沃土を形成してきた。我々はその原点に遡ろうと考えた。

美術館の天井に届かんばかりにそびえ立つ六角形構造物。その素材は閉鎖される倉庫の奥に眠っていた重々しい木製の米(こめ)用パレットで、戦後間もなく作られたものだ。今回、堆肥作りの囲いとして組み立てられることで、産業廃棄物としての焼却を免れた。美術館での展示の後に、INAKA Projectの畑へ持ち込まれ再設置され、実際の堆肥づくりが開始される。

沃土プランでは、 来る2020年の芸術祭を迎えるにあたり堆肥をつくり、沃土をこしらえる計画であり、さまざまに縄文思考の回復を図ろうとしている。

2019年３月15日

三苗の百越・百姓踊り

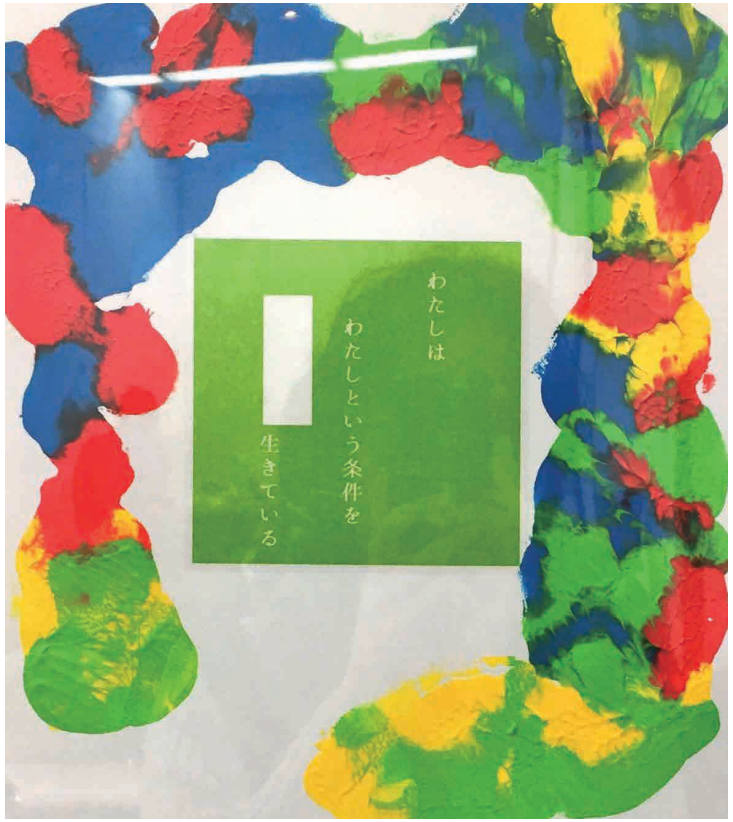
今から２万年ほど前までは氷河期で、東チャイナランドが大きく拡がり、日本列島は大陸に含まれていた。境界付近には古・三苗族という先史時代人が暮らしていた。氷河期が終わり大陸と島嶼が分離すると、同族は日本列島側と遼東半島付近とに別れて住むことになる。

列島側では種子を携えて日本列島にやってきた三苗と、獲物を追って北方ツングースとが混血して縄文人となる。彼等は狩猟採集と焼畑を頼りに独特な土器を焼く。

一方大陸に別れた三苗・百越の民は水稲の灌漑や洪水から身を守る土木事業を得意とした。やがて、海を挟んで同族の住む彼の地のことは、伝承の域へと遠退いていく。

軽々しく

何気なく



真剣に　難しく　気ままに　信じながら　探りながら

わたしの条件

菖蒲澤　侑

１５　suzu　「毎日ユニコーン」

夢や願いを叶えたいと願っている誰かのためには

実現する勇気や力を。

元気がないあなたには

優しく包み込む愛を。

ひとりじゃないと気づいてもらえるように

今日もユニコーンを描き続けている。

なぜ、ユニコーンを描くのか？

ユニコーンには夢や願いを叶える力、癒しの力があると言われている。

私がユニコーンを描く理由がここにある。

なぜか人気だった「焼きトウモロコシ・ユニコーン

今回一番人気だったユニコーン。万年筆で描いたもの。

火消しの意味を込めて。「ぶかぶか浮かぶユニコーン」を消火器の側に飾ってみた。

たくさんの方が応援してくれている。

それを今まで以上に感じることが出来た素晴らしい時間でした。

みなさんありがとうございました！

初めて宝船展に出展させてもらいましたが、

作品が完成するまで、楽しく製作する事ができました。

来場者の方々に『スクラップブッキング』というアートを

知ってもらう事ができ、『私も作ってみたい』という声を

いただき、とても嬉しかったです。

出展者のアーティストの作品を見て、私自身も

いろいろと刺激を受ける事ができました。

いろいろなアーティストの方との交流もできて楽しかったです。

NO.16《海の世界》　ソナニタ

上段は、海に流れている漂流物を表現し、

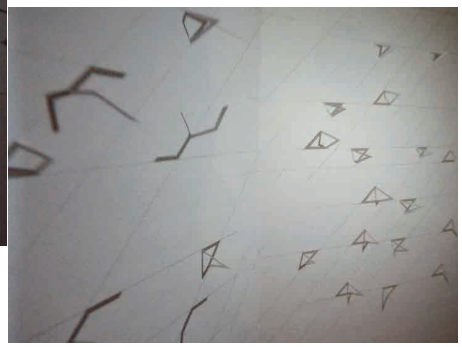
下段は、深海に沈んでいる漂流物を表現しました。

海に流れてくる、流木や花などを表現しました。

TAKARABUNE-EXHIBITION 2019　No.,17 田中　清隆「方法装置」

ヒカリとカゲを楽しむ装置　触ることにより交遊装置とも言う、その1

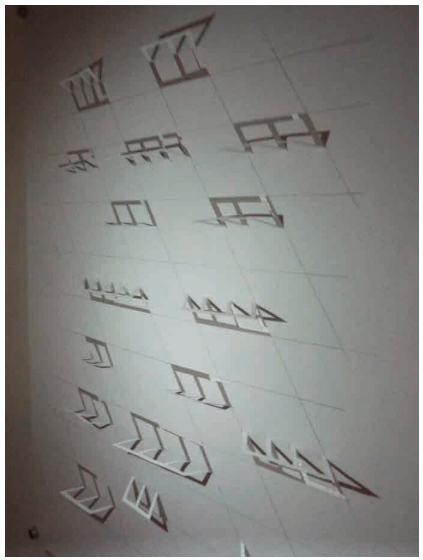
「ヒカリ」と「カゲ」の楽しみ方、遊影シリーズ。
「あるもの」＝物体を「ヒカリ」で照らすと「カゲ」が現れます。
「ヒカリ」から物体の距離・方向・角度により、長く・短く、厚く・薄く、
伸びて・縮んで「カゲ」の表情が変わります。
単純な「モノ」から現れる不思議な「カゲ」を捜し、見つける、装置。
触って参加する。



TAKARABUNE-EXHIBITION 2019　No.,17 田中　清隆「方法装置」

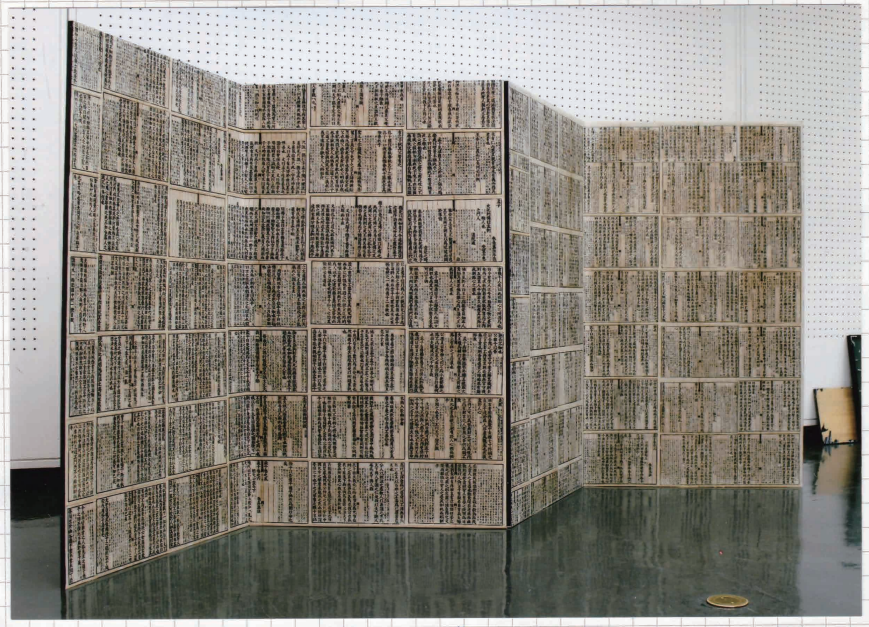
ヒカリとカゲを楽しむ装置　触ることにより交遊装置とも言う、その2

「ヒカリ」と「カゲ」の楽しみ方、遊影シリーズ。
これからも少しづつカタチを変えて繋がる。



18　出店久夫　「象と少女屏風図」　2018年作　151×356cm　表面

象と少女屏風図は基図の「コラージュ2018-少女図」のイメージが展開して屏風に成りました。
私はかって油彩画より写真コラージュによる作品に切り変えた折り、正・反並転した画像にしましたのは、「逆も又真なり」の言葉に導引かれて左右対称・上下反転の作品を作り続けております。
シュールレアリズム絵画より出発した私にとって、単なるシュールレアリズムでは無い絵画、シュールとは何か？現代性を持ち、未来志向の絵、私の内なる心の問いに対して、画面が他者として存在いたし、謎を突き付ける作品を求めた結果です。
屏風は私が幼年時代を過した小さな家の薄暗い部屋の隅に置かれていて、その前で遊び、その裏側に何かがいる様に感じる摩訶不思議な物であったと記憶してます。
その記憶に引かれて、裏面に古和綴本の論語集をコラージュしております。
今では読み解く事も出来ず!!　でも何かその文字の中に言霊の様なものが感じられるのです。
表画面を見てより裏面に廻り込んで観賞してくださる様に画面中心に後頭部にお面を付けたダンサーの裏踊り像を舞台廻し者としてコラージュします。
それは屏風形体をかりての表裏一体の世界の謎を感じてくださる事を願って制作なのです。



「象と小女屏風図」裏面

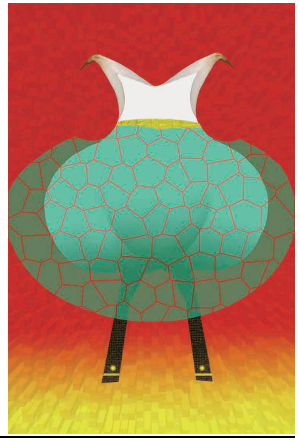
屏風の前で裏踊をする江原朋子氏

SMF 2019 年 宝船展

出品番号１９

名前　中村元

題名 双頭のパフォマー



2019 宝船展は来場者も増えてお客様の声も喜んで聞こえた。SMF の年間で宝船展は大変楽しみな催しの一つだ 写真を撮りだして足掛け６０年位になるが十代の頃は故郷の祭りの写真(花火)で推薦を貰、

其処が写真の原点かも知れない

今回は写真を加工して表現する作品で参加した。作品つくりはパソコンでファイルを開き妄想を繰り広げるのだ

出品したアイスラブや双頭のパフォーマーは此の年齢になってやっと見えてきた風景かなと一人思っている。

画像を重ねたり透明度を変えたりフィルタをかけて一瞬に画像の変化が現れたときは

楽しさが倍に成る。

今回はパフォーマにも参加させてもらい楽しかった、

私は寿獅子舞の舞い手なのだ、覚えたいと思ったのは１９６５年２５歳の正月日本橋人形町の寄席で初めて獅子舞を見てお客さんが大喜びしていたのが忘れられず(簡単そうに見えた)其れから師匠を探して３０年「覚えたいと言う気持ちを忘れないでいたのだ」

其の年３月さいたま市内の伏見稲荷別院「初午祭」の記録写真を撮り続けて１０年目の時た゛った祭りも終わりかけた頃トラックの荷台でお囃子を奉納していた若手衆から来年は獅子舞を奉納しょうぜと声が聞こえたので 誰がと聞き返すと俺たちだと返事が返ってきた すかさず教えてと言うと今晩此処に来いよと言われ夕方６時半頃行くと 師匠の所へ連れて行ってくれた。

即入門でその日からお稽古が始まった、其の年は阪神淡路大震災が起きた年なので良く覚えている。伝統芸能に向かった年でもあったのだ。

此の世界は年配者が多くその時 自分も５５才で若手だった。

稽古は激しくシゴカレ、体で覚えた。

あれから２４年が経ち忘れられない思い出は

テレビドラマ瀬戸内寂聴作 宮沢りえ主演「女の一代記」ロケ地鎌倉「昭和３５年の正月風景」に獅子を舞たのだ。

別の思い出はポーランド・グダンスク市 市民会館でのライブだ

此の話は又別のきかい。

寿獅子舞は私の宝だ昨年は銀座の三つのギャラリーで三回寿獅子舞を披露した。

何時もは お囃子をテレコで済ませているが

今回の SMF 宝船展でははユニット日光街道中村座の仲間を呼んで寿獅子舞を披露する事が出来て気持ち良かった。笛と太鼓の仲間と久しぶりにステージに立ててお互いをたたえ合う事が出来た。

SMF 宝船展は新しい作家さんが少しづつ増えて広がりを見せているので思考錯誤しながら続けて行きたいと願う。又会場の埼玉県立近代美術館様には

御協力を感謝申し上げます有難う御座います。

20 「3 分スケッチング」 中村 隆

ポスター

3 分クッキングからヒントを得て、3 分スケッチングを思いつきました。手元にコピックという画材があったので、使ってみました。実際には 3 分以上かかったものもありますし、3 分以内で描いたものもあります。時間はとにかく、1日1枚、3日で 3 枚…1 年で 365 枚のスケッチができあがります。相当な枚数です。日々の慌ただしい中で、たった 3 分時間があれば！お湯を注いでカップ麺ができあがる間！ちょっと気分転換に！ 3 分間の創造の海へ!

No.21.22

西尾 路子

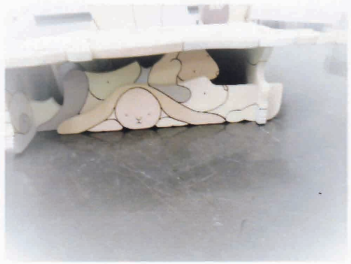
solid@plane://23 大•犬/2018　　花物語三話

「平面⇔立体」そして「表⇔裏」

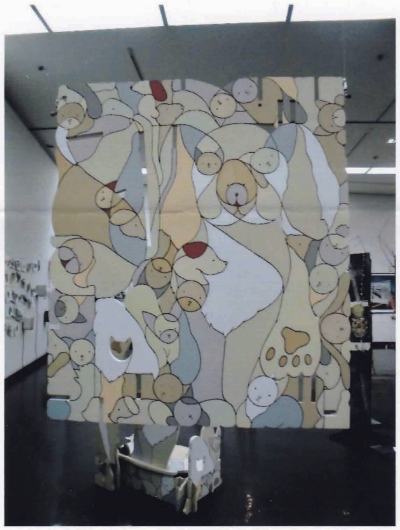
「絵は絵として」「立体は椅子として」単独作品でもよいのに、
平面と立体が、単純に同じという作品です。

「欲張り作品ですね」と、評した方がいた。

「面白いでしょ〜」と、何時も答えている。



椅子下のワンコ



裏面から

パフォーマンス は「平面から立体へ」そして「立体から平面へ」

伴奏/パンフルート大束晋

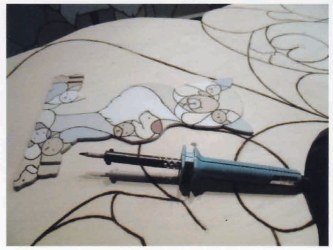
絵が椅子へ

観客と共に組立て

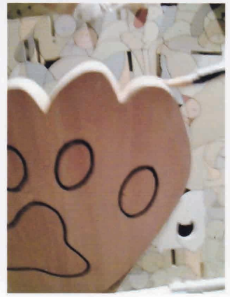
座る

'19-規矩-34(櫻) miniaturemode

おまけ

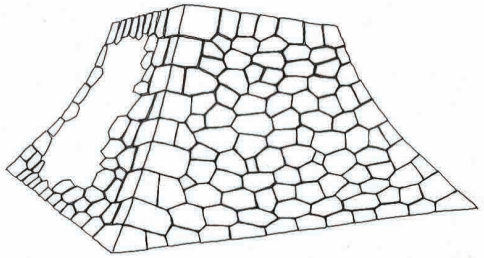


solid@plane://23 大•犬/2018 制作風景

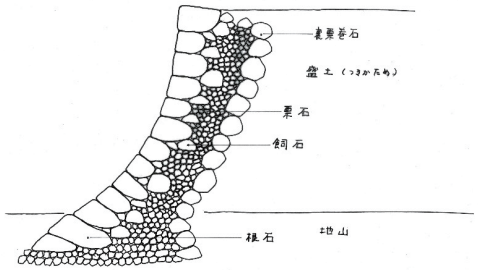


出品番号　　23
作者　　日本庭園協会埼玉県支部
作品名　　向月台

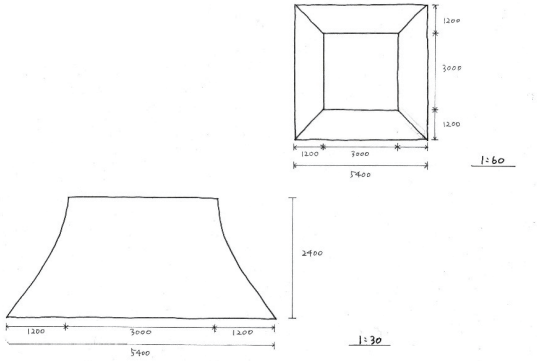
向月台イメージスケッチ



向月台断面図



向月台　空積みによる城石垣

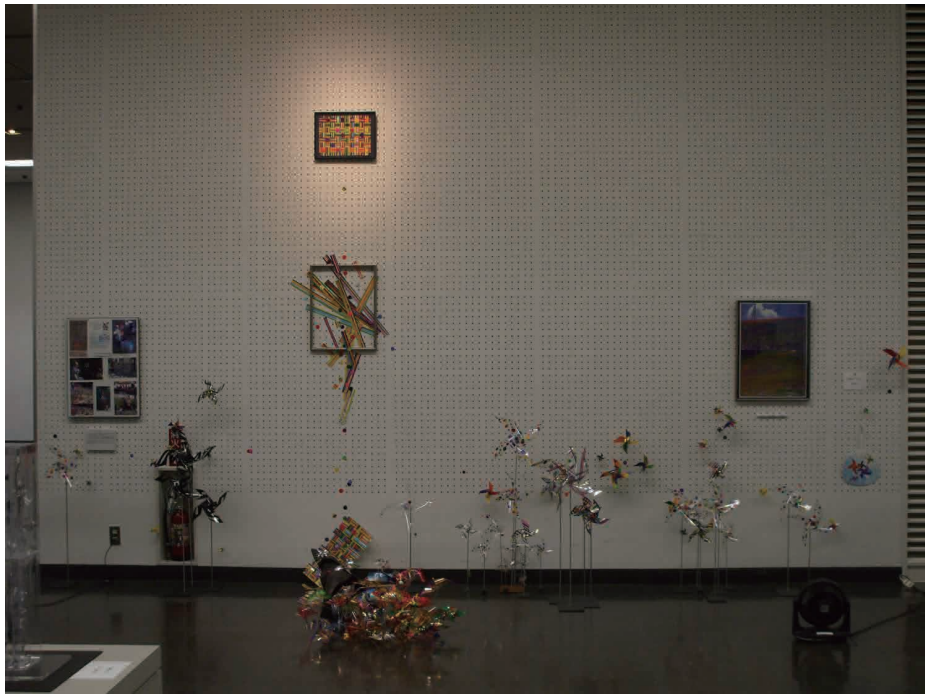


作品のコンセプト

日本の城の石積みの角の線に心を引かれてしまう。
石の質感、機能的であり構造性もあるが、それ以上に美しい。
出品作品はダンボールで城積の線を表現した。実際の石積みでは見られない裏側からの構造も可視化した。
ダンボールをそのまま使用したのは、それぞれに愛媛であり、千葉であり、青森であるそれぞれの物語があり、それが石の表情になると考えたからだ。
自分の大好きな空間で夜空に輝く月を見たい。

日本庭園協会埼玉県支部は庭を作ることを仕事にしている職人の集団である。おのおのが表現することを考えながら庭と向き合っている。

作品２４　色を編む №.２　「内と外」　　根岸　和弘



　このテーマは、額に納められ壁に掛けられている作品から床面の「かざ車」へと変容していく過程を表す。
額縁内の作品は、帯状の多彩な色と水玉模様を造形要素とし、編み込む技法で幾何学的なイメージを構成する作品であり、これを起点とした。
その下にかけられている作品は、カラフルな帯と水玉に分解され、フレームから脱出し、イメージから開放される流れを表している。
これらの造形要素は透明な「かざ車」と出合い、日常の空間に展開して行く。

（１）色を編む～額装作品「内」
　５色の帯の支持体が即、表現となる。編み込む技法で構築した平面、さらに水玉模様を配することで幾何学的なイメージを強調する作品とした。

（２）イメージの開放～「外へ」
　編み込まれた平面は構造上ほぐれやすく、帯状の色と水玉に分解され、その過程を落下する姿として表現した。

（３）展開～「外」
　日常の空間に降り立った造形要素は、用意された透明な「かざ車」に出合い風を受け（室内なので人工的に起こした）、更にカラフルな水玉模様の多様な動きと混色により、リズミカルな空間を作る。
　床面に配置された「かざ車」約５０本の花束は、今まで野外でのインスタレーションで使用してきたものであり（浦和・大阪・山口・新潟など）、この会場から外へ繋がることの象徴とした。

（４）オープンスタジオ
　展示会場に新たに設けられたオープンスタジオはライブインスタレーションやワークショップを身近なものとし、来館者とアートを共有する環境を創出した。
　私はミニ「かざ車」のワークショップで参加しましたが、完成作品を手にする参加者の笑顔からそれが実感できた。

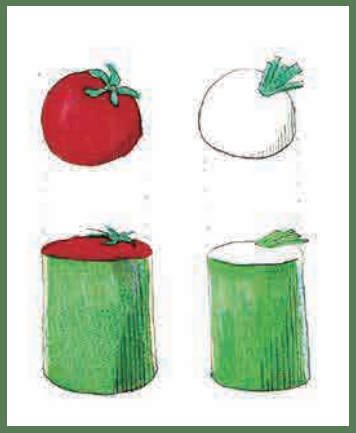
25 座ってごらんな菜

根本賢（ネモ本舗）

本作は、

野菜 果物をモチーフにした

合成皮革を表面材料とする座面である。



※作品イメージ

※宝船展 2019 の展示風景

宝船展2019にて

野菜 果物をモチーフにした座面のスツールとベンチ
４脚を出品し、「さわれる」「すわれる」「うごかせる」
をコンセプトに展示した。

本作が果たした役割

①会場内の鑑賞の拠点
②写真撮影スポット
③語らいの場
④休憩の場

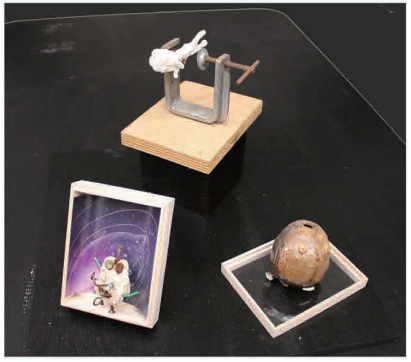
鑑賞者の手によって単なる作品としてではなく、
場を形成する装置として機能したといえるだろう。

幼い子ども向けのプロダクトとしても、コレクションとしても需要があるのではないか。

今後は機能や種類のバリエーションを増やし、「ネモ本舗」というブランド名で販売をしようと考えている。

Nemohompo

拾い集められたオブジェたち　もしくは見捨てられた”もの”達



２０１９年SMF・宝船展　出展作品
見捨てられた　もの　達へ
FURUKAWA　MASANORI

■■■　■■■　■■■　■■■
２０１９年
SMF・宝船展　出展作品
MAKANAI・Ⅱ「こんな時代に生まれて・・・」
FURUKAWA　MASANORI

こんな時代に生まれて・・・

異常も　日々続けば　日常と化す。

タイル
モザイク
アート

作品番号 27　作）増田めぐみ

¡HOLA! ～ガウディへの憧憬～

タイル
モザイク
アート

作品番号 27　作）増田めぐみ

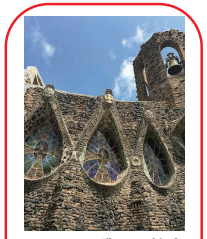
¡HOLA! ～ガウディへの憧憬～

建築家アントニ･ガウディが好きで、テレビの特集や本など、よく観ていました。
そのうち、実際の建造物をナマで観たくなり、バルセロナへガウディの建造物を尋ねる旅をしました。
大胆で独創的な作風に圧倒され感激しました！　その中でも特に自由で芸術的なタイル装飾に魅了され、
自身でも、タイルモザイクアートを創ってみたくなり、色々調べてみたところ…
「タイル」と一言で言っても、古典芸術としてのタイルアート、建築インテリアとしてのタイル装飾、タイルを使った雑貨など
なかなか奥が深く、また趣味手工芸としてはかなりマイナーで（笑）教えてもらえるところを見つけるのが大変でした…
それでも、現在のタイル作家の先生との出会いからクラフトタイルアートを習い始め、数年経ち腕も上がってきたので
あのバルセロナ旅行のガウディの思い出を詰め込んだ集大成!!　をコラージュ風のオリジナルデザインにして
タイルアートで仕上げ、「¡HOLA!～ガウディへの憧憬～」を今回初出展させていただきました。　【増田めぐみ】

サグラダファミリアのモニュメントのイメージ
HOLAはスペイン語で『やぁ!』

コロニア･グエル教会の流線型の天井をイメージ

HOLA
GAUDI



コロニア･グエル教会のステンドグラスのイメージ

サグラダファミリアの天井の光と計算された角柱をイメージ

カサ･バトリョの幾何学模様の床のイメージ

グエル公園のベンチをイメージ

たくさんの方にご観覧いただき、ありがとうございました!

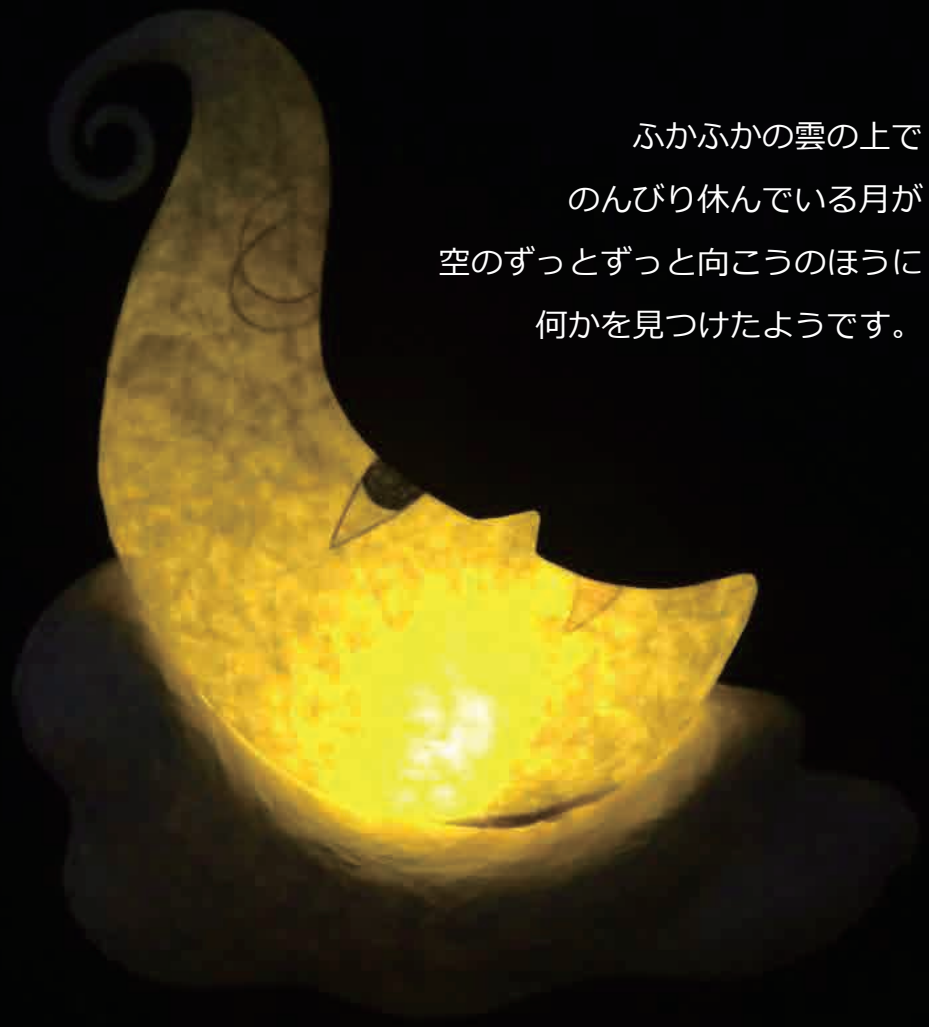
Social Capitalism

SYUTA（三友周太）

Social Capitalism(Plato’sCave)はSYUTA(三友周太)とロサンゼルス在住の日系二世アーティストのMike Saijo(マイク・サイジョウ)が実施するアートプロジェクトです。
2018年の秋に2人のコラボレーションで生まれた作品は、Mikeが日本で出会った人達の似顔絵を透明なシートに描き、それをSYUTAがホイール状に組んだフレームにはめ込み、吊るして回転させスポットライトを照射してその影を壁に投影します。タイトルのPlato’s Caveは古代ギリシアの哲学者プラトンの提唱した「プラトンの洞窟の比喩」を模した作品です。ホイールにはコミュニティ毎の肖像画をはめ込み、異なるコミュニティ毎に複数のホイールを作成して、同一の空間に吊るしてゆきました。肖像画のドローイングは別々の異なるコミュニティとして存在していますが、投影された像は同一空間の中で重なり合うことでの融合を図ります。2020年の展示では、県内でワークショップを開催しながら参加者により制作された作品と、参加者の肖像画を描いて展示をしてゆく計画です。ワークショップを行ったコミュニティ毎にホイールを作成し、複数のホイールを天井からつるします。それぞれのホイールはスポットライトから照射された光から投影された像で一つの空間を埋めてゆきます。回転するホイールから映し出される映像は走馬灯のように巡り空間全体に動きを作り出します。
今後もコミュニ的毎のテーマに基づき、ホイールを制作し展示してゆきます。ホイールには似顔絵だけでなく、個々によって描かれる作品も投影し空間を埋めてゆくことで他者との関わり合いを考えてゆきます。

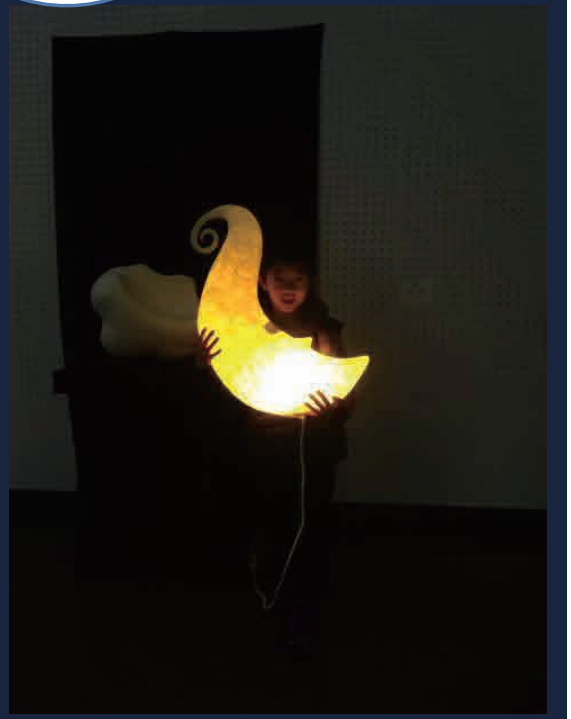
29　月のみつめる先

みゃうか



ふかふかの雲の上で
のんびり休んでいる月が
空のずっとずっと向こうのほうに
何かを見つけたようです。

雲にもたれかかり優雅に何かを見つめる月をイメージした作品です。
素材には和紙を使用し、中に LED を入れて月の質感を神秘的に表現しています。
また、和紙が軽くて丈夫なこともあって、手に持って楽しむことができるのもこの作品の特徴です。
実際何人もの子どもたちがうれしそうにこの月を抱きかかえてくれました。その笑顔をいくつも見ることができて、こちらとしてもうれしい限りです。



30　灯りの中のことば　みゃうか&京穂（けいすい）

現代アーティストみゃうかさんと書道家京穂とのコラボレーション作品です。
みゃうかさんが作った和紙玉に、文字を書かせていただきました。今回は４つの和紙玉を展示することになったので、百人一首の中から「春・夏・秋・冬」の句を選びました。
和紙玉の柔らかい雰囲気が百人一首という古風なイメージを和らげてくれるかなという思いを込めて百人一首を選びました。
今度は見た人みんなが読みやすい現代風なものも書いてみたいと思いました。
和紙玉に関しては、様々な和紙を使うことで灯りを入れた時に多彩な表情が出るようにしたとのことです。また、筆に関しては墨の筆ペンだけでなくピンクや深緑などのカラーインクの筆ペンを使用し、四季を表しました。

写真１：和紙玉

写真２：春の句

和紙玉の中の LED ライトや上から吊るすための方法には少し工夫が必要でしたが、みゃうかさんのおかげでバランス良く吊るすことが出来ました。
和紙玉の肌触りなども感じてほしかったのですが来場者の方は触ってはいけないと思っていたようだったので、次回からは一言書いておきたいと思いました。

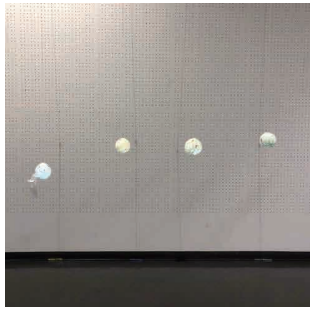


写真３：展示の様子

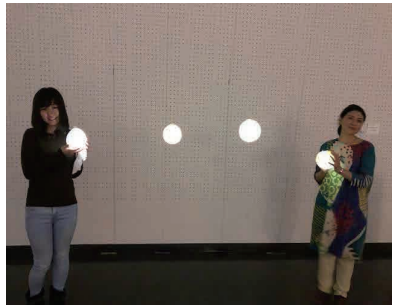


写真４：京穂（左）みゃうかさん（右）

写真５・６：LED ライト点灯時

作品の横にノートを置き、展示期間中に来てくださった方からのメッセージを頂きました。

「昔の人の魂の容れ物のよう」
「幻想的で素敵です!」
「癒される感じがします」
「四季の色合いと、百人一首の季節感。マッチしている気がします」
「とても綺麗です!!どうやって作ったんだろーって興味深いです…!!緑色が個人的に好きです♡細い文字が上手で素敵な作品でした」
「さわらせてくれてうれしかったです」
「むずかしいことばがかいてあってすごいです」

皆さんに興味を持ってもらえて素敵な時間となりました。和紙玉に文字を書くときは修正が利かないのでとても緊張しました。普段は普通の半紙に書くので立体の紙に書くということはとても楽しい経験となりました。（京穂）

出品番号 32　作者名：矢花 俊樹　作品名《 「MOMAS の扉」ワークショップの記録 》

はじめに

2014 年4月から 2017 年3月まで埼玉県立近代美術館にて教育普及事業を担当した。その3年間で私が企画・実践した教育普及プログラム**「MOMAS の扉」**と現在に至る**その後の活動**までの **40 のワークショップ**をまとめた。この記録がワークショップの企画・運営に携わる方の参考となれば幸いである。

埼玉県立近代美術館　ミッション・ステートメント

埼玉県立近代美術館の目指すものとして、職員証の裏面に記されている。これは勿論「MOMAS の扉」の目指すものでもある。

1. **美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。**
2. **人々が集い、参加し、交流するための基地となります。**
3. **未来を作る子どもたちの感性と創造力を育みます。**
4. **地域や県民とともに進化する美術館を目指します。**

鑑賞 ＋ 制作

「MOMAS の扉」の特徴は、美術作品の鑑賞と鑑賞後に行う参加者の制作が結びついていることである。この**鑑賞と制作が一体となったプログラム**は埼玉県立近代美術館の教育普及チームが探究しているもので、参加者が鑑賞の楽しさと美術作品の素晴らしさを味わい、**感性と創造力**を育み、鑑賞や制作する楽しさを実感することをねらいとしている。そして、生涯に渡り美術作品の鑑賞や制作を愛好することに繋がることを願っている。

対話による鑑賞

私が行っている鑑賞は**“対話による鑑賞”**をベースとしている。複数の鑑賞者と、作品から感じたことや考えたことを伝え合いながら、鑑賞を深めていくものである。ここで重要なことは、ファシリテーターの発問である。鑑賞者が作品について自由に思いを巡らせることのできる発問や、主題に迫っていく発問を工夫している。みんなで**楽しくおしゃべりをする感覚**で感じたことや考えたことを伝え合い、鑑賞する楽しさを実感できるよう心掛けている。

No.14　「おしゃれな枢機卿になろう」

2015.06.06　み～っけ！〔未就学児 ＋ 保護者〕（120 分）参加者 28 名

鑑賞作品　ジャコモ・マンズー《枢機卿》

鑑賞　**コスプレによる同一化**

み～っけ！は未就学児と保護者対象のプログラム。お子様の美術館デビューに最適です。**「この人は何をしているのかな？」**と問いかけると、「バスタオルをまいている。寒いのかな？お風呂上がりかな？」「床屋さんで髪の毛を切ってもらっているのかな。」など、未就学児ながら自分の**生活経験**と重ね合わせて作品から感じ取っています。**「みんなも同じ格好をして、この人になってみましょう！」**といって、**マント**と**鳥帽子**を配り、お家の人に着せてもらいます。実はこの人、神様に「平和な世界になりますように。」とお祈りしている人なんですよ。

「目を閉じて。みんなもお願いしてみましょう！」皆、気分は枢機卿！真剣にお祈りしています。「何をお祈りしたの？」と尋ねると、「家族みんなが長生きしますように。」「みんなが幸せでいられますように。」と、優しさに溢れる願い事がたくさん聞けました。

身体性

制作　**オリジナル題材**

真っ白なマントと烏帽子では少しさみしいですね。ここは美術館。思いっ切りおしゃれな自分だけのマントと烏帽子にしちゃいましょう！未就学児はなかなか使うことが少ない水彩絵の具と絵筆ですが、お家の人やミューコラ生のサポートにより上手に使いこなしていきます。親子一緒にたくさんの模様を描いていくと突然創作室の電気が消えます。

停電

「あっ、**停電**だ…」親子で少し不安な様子。次の瞬間、**ブラックライト**が点灯すると「わぁ～きれい～！絵が光りだしたよ！」そう、使っていた絵の具はアクリルガッシュ**蛍光色**！パレットや筆先、絵の具が付いた指先まで光ります。「光で描いているみたい。」まさに、**光の国でお絵描き**をしている気分です。これには親子で大興奮。もっともっと光らせようと、制作に夢中になる子供の姿を見つめる親の眼もキラキラ輝いていました。

鑑賞会　**ブラックライト**

最後は、光るマントと光る烏帽子を身にまとい鑑賞会です。**エンヤの音楽**にのせて、教会の中をゆっくりと枢機卿が歩くように入場し、**幻想的なファッションショー**形式の鑑賞会を楽しみました。おしゃれな枢機卿が勢揃い！とっても感動しました。

幻想的な演出・BGM

プログラムの独自性

子供達に「**ここでしかできない体験**をして欲しい。」という思いがある。図工・美術の題材や、普段の生活で経験できることを美術館でする必要はない。自ずと学校ではなかなか扱わない材料や道具、技法を取り入れるようになり、**オリジナルの材料や技法、題材**の考案にも至った。また、身体全体を使って鑑賞や制作をする**身体性**、親子プログラムの際の**インタラクティブ性**、制作した**作品の見せ方**や**鑑賞会の演出**等を意識した。図工・美術と他教科を横断的に学ぶ、**クロスカリキュラムの視点**も考慮した。**時間的制約**のある中、これらの工夫をワークショップの**“スパイス”**として取り入れながら構成した。さらに、参加者の年齢層が幅広いことから、**小学校1年生にもできて、大人がやっても楽しめる鑑賞や創作活動**となることを常に心掛けた。その結果、独創的なワークショップが企画・実践できたのではないでしょうか。

美術館での勤務を終えて

学校教育現場に戻った今、教員として**学校教育**でできることと、SMF のメンバーとして**社会教育**でできることを模索しながら活動している。これからも、埼玉県立近代美術館での経験を大いに生かし、**アートの布教活動**に専念していきたい。

出品番号 33　作者名：矢花 俊樹　作品名《 旅へ誘う虫たち 》

人生を懸けて、リアルな虫を作り続けること。。。

あの日、あの場所で出会った虫…
記憶の中の虫たちが、
あなたを、あの日、あの場所へと導いてくれます。
さあ、虫たちと一緒に、時空を越えた旅に出よう!
サウダージ

material　silver950
size　生体昆虫と同じ

出品番号 34　指導者：矢花 俊樹　作品名《 自然豊かな未来の蕨 》

縦 2.5m×横 10m

制作　蕨市立北小学校第3学年 87 名　指導・協力　蕨市美術連盟
鑑賞　2018.10.17　制作　10.31　受賞　第 50 回蕨市公募美術展覧会 絵画部門 蕨市美術連盟会長賞

はじめに　本題材は、**蕨市美術連盟**の指導・協力を得て、蕨市内の小学校が毎年順番に取り組んでいる**ビッグ・アートの制作**である。画用紙のサイズは **縦 2.5m×横 10m**である。導入で蕨市在住の画家、**智内兄助氏**の作品鑑賞を行い、身近な美術作品のよさや美しさ、表したいことなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げ、構想・制作に繋げる題材である。鑑賞活動も制作も、新学習指導要領解説 指導計画作成上の配慮事項 **“共同してつくりだす活動”**に当たり、お互いに鑑賞や表現を高め合う題材である。

鑑賞　鑑賞作品　智内 兄助《Galaxie Ⅰ》

対話による鑑賞から制作へ

87 名で“対話による鑑賞”を行った。**発問①「この絵には、何が描かれていますか？」発問②「時間帯はいつ頃だと思いますか？」発問③「どんな世界だと思いますか？」発問④「絵の中で、何が起きていると思いますか？」補助発問「この絵から、どんな物語が想像できますか？」**と鑑賞を進めると、「夢の国へ引っ越しをしている。」「月の蝶と地球の蝶が年に一度だけ会える日に卵を産む場面。」などの意見がでた。主題に迫る子供達にとても感心した。

共同制作

身体性

制作　「各自、昆虫か植物を1点描く。描いた生き物は**自分自身**でもあるんだよ。」と声を掛け、イメージを膨らませた。6人選抜で画用紙に寝かせ、**全身トレース**を行い、プロポーションの美しさを体感した。**ドリッピング**や**点描**、ローラーなど、**既習事項**を生かした創造的な技能が多く見られた。

既習事項

鑑賞会　**制作途中で鑑賞**を行い、互いの発想や表現技法を**共有**し、その後の活動に生かした。
完成後の鑑賞会は**インタビュー形式**で行い、工夫したことやどんな思いで描いたかを発表し合った。

インタビュー

35 番　山口素子　「飛翔～大海原へ花船に乗って～」

今回、宝船展 2019 へ初参加させていただきました。

アートクラフトタイルを工具で割って細かなピースにし、ベニヤ板に図案を描き様々なモチーフを画面へ構成したところへ四角、三角、丸や花びらやしずくのような形に小さくカットしたタイルを、サイズや貼り方やスペースなどを考えながらモザイク状に貼り並べて製作いたしました。

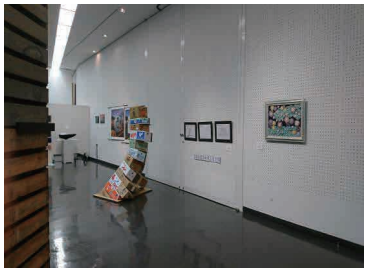
図案は吉祥紋様の青海波、千鳥、菊の花をあしらいました。今回の作品は、病に立ち向かう友人を励ましたい！との想いから製作を開始しました。人は困難に直面したとき、不安、動揺、焦り、苛立ちなど、様々な感情が湧きあがります。そのネガティブな感情が心を支配してしまったとき、どうやって心を整え穏やかな気持ちにたどり着き、決意を持って困難に立ち向かっていくのでしょうか。心が強くなり前を向いてチャレンジをしていく、その心の動きや変化というものが、何に作用され突き動かされそして原動力となってポジティブに前へ進んでいけるのだろうか？と考えます。それは、人が持つ内面の力と環境や周辺が与えるいろいろな出来事であったり経験であったりが作用するのではないでしょうか。時間というのも前を向く力のひとつかもしれません。

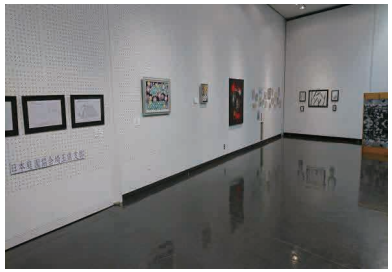
私が作品を製作するときには、必ずストーリーがあります。自分の生活の中で何かが起きたとき、あるいは、心を動かされたりハッとする出来事に遭遇すると私の中で事件となって心が動かされます。その心の振動を受け止め気持ちを落ち着かせたいと願ったり、何とかならないかと思ったりすることを作品の中に閉じ込めます。何かのエネルギーが湧きあがると作品への意欲や情熱が満ちてきます。皆さんもきっとそういう経験があるのではないかと想像します。

製作中はとにかく楽しいの一言です。作っている時間が愛おしく大切に思いながら集中できて充実感を得たりします。つらいとか間に合わないからどうしようとか、そういうことで製作したことは一度もありません。期限や何かの制約に縛られたくないからです。もちろん肩が痛くなったとか目が疲れたとかそういった症状には悩まされます。作品に閉じ込めた時間というのは、私の願いや希望や素敵なことが起こりますようにと思いながら作るので、自分に何があったのか、その時どう思っていたのか、「私の歴史の目撃者」が作品ということになります。私にとりましても自分を振り返れる作品となりました。今後もタイルモザイク作品を様々な出来事の中でライフワークとして製作していけたらと思います。

この度はこのような素晴らしい発表の機会を頂き、事務局担当者の皆様にも大変お世話になり本当にありがとうございました。

【展示会場風景】





【製作写真１・２：ベニヤの上に花の形で作ったタイルをそれぞれ乗せていく】

【製作写真３・４：千鳥の形にカットしたタイルを散らして波をモザイク状に貼っていく】

【製作写真５・６：波が出来上がったら背景となる紺色の小さく四角くカットしたタイルを貼っていく】

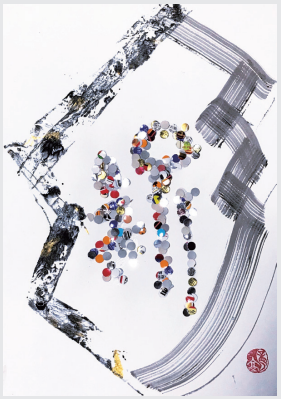
【製作写真７：タイルとタイルの隙間に目地材を上から塗り込みふき取り磨き作業して完成】

『Dot-Line Celebration 2019』

『Dot – Line Celebration 2019』
2019 年平成天皇が退位される年になりました。長い平成という時代も終わり、新しい時代を迎えるにあたり、私の作風も新しいものにしたい。
仕事柄、文字を扱うので、印刷物や広告に目が向いてしまいます。この印刷物の文字と、幼少期から書道をやっていましたから、それをミックスすることが、私としては自然な流れです。コラージュというのは、いろいろなものが混ざっていて、私の好みに合います。
今回『Dot – Line Celebration 2019』と名付けましたのは、2019 年元号が変わることをお祝いする。そして、お祝いに向くような配色にして、「ドット」は円満・角が取れていて

NO.37
横 田 龍 堂

柔らかい印象を花のように作り、「ライン」は書道や墨象の力強い線で幹を作っています。今後、人を気持ち良くさせられる作品を制作していきたいと思う 2019。



新年の宝船展 2019「オープンスタジオ 創造の海へ！」に参加できたこと、心より感謝申し上げます。
多くの方に作品を見て頂き、いろいろな感想を頂いたことを励みに、切磋琢磨して行きたいと思います。
この作品展の醍醐味は、幅広いジャンルの先輩方の作品に刺激を受けながら、新年をスタートすることができることだ思います。他のアーティストの素晴らしい作品の着想や、熱意に勉強させられることが多かったです。

宝船展 2019

●会期 2019 年 1 月 16 日(水)～20 日(日)　●会場　埼玉県立近代美術館 地階一般展示室

「オープンスタジオ」

会場内アトリエ風空間

この「夢のスタジオ」で
アーティストが〝ライブインスタレーション〟を行います。

〝ライブインスタレーション〟とは『展示空間を含めて全体を作品とし、
見ている者がその「場」にいて体験できるアート作品』のことです。

会期中は、数名のアーティストが
〝ライブインスタレーション〟を行いますので、
ご来場の皆さまは、アーティストの作品作りに関わったり、
お話をしながら制作の様子を楽しんでいただけたら幸いです。

またここは、ご来場の皆さまの「夢のスタジオ」でもあります。
いつでも、どなたでも、自由に参加出来ます。
絵やもの作りなど、画材や材料を使って
思うがままに表現してください。
壁面に直接書いても結構です。
どうぞ気軽に楽しんでください！

制作した作品は、オープンスタジオ内の壁面に貼ったり、
床に置いたりして、展示してください。
お持ち帰りいただいても結構です。
作品には制作年月日、タイトル、よろしければ
お名前もお書きください。

宝船展2019

「オープンスタジオ」

会場内アトリエ風空間

■数名のアーティストがライブインスタレーションと、ワークショップなどを行った。また来場者は壁に絵を描いたり、素材を使って工作を楽しんでいた。週末は子どもたちで賑わった。

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：浅見俊哉

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

さいたまアートセンター（仮）設立構想計画

Year of realization 実現(予定)年： 2019-2025

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

わくわくする
体験であふれる
アートセンター
をさいたま市につくる！

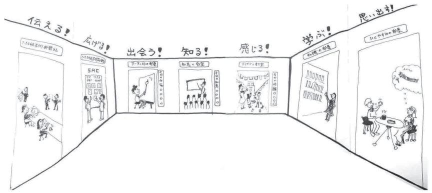
SMF Saitama Muse Forum

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版(素描、写真、模型など)：



1. 伝える！「さいたま市民芸術新聞社(仮)」
募集！ライター・エディター
・さいたまのおもしろさを個人の視点を大切に広げる
・アートイベントやアーティストへのインタビューなどを盛り込みアートへの関心を高める

2. 広げる！「さいたま市民芸術資本銀行(仮)」
募集！参加店！作家！
・の創造力と創造力を交換して広げる
・「できます！」「できませんか？」掲示板から新しい創造力を生み出す！

3. 出会う！「アーティストの部屋」
・さいたま市に滞在または通ってもらいアーティストが創作することで市民とアーティストの出会う場をつくる。

4. 知る！「知恵の教室」
・アートに関わる様々な立場の人がレクチャーを行う

5. 感じる！「アイデアの教室」
・アートに関わるワークショップを行う

6. 学ぶ！「知識の部屋」
募集！図書員！
・これまで行ってきた活動のアーカイブを自由に閲覧できる部屋

7. 思い出す！「ひとやすみの部屋」
・いわゆるカフェスペース。体験したアートをゆっくり思い出す部屋

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：氏店久夫

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

4双1曲屏風「象と少女屏風図」

Year of realization 実現(予定)年： 2018年作品

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

コラージュ2018・少女図とドローイング2018・象と少女よりの作品が展開・発展してイメージが定まりまして、4双1曲の「象と少女屏風図」になりました。

ダンサーの方は後頭部にお面を付けての裏踊です。

ドローイング2018・象と少女 60×41.5cm

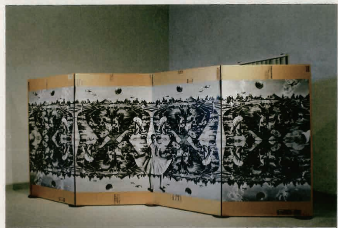
コラージュ2018・少女図 170×98cm

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版(素描、写真、模型など)：



象と少女屏風図 表面 151cm×356cm

ダンサーの裏踊よりインスパイアーされて表裏一体の世界を感じて、両面を観賞して欲しいです!!

裏面

古和綴本の論語集をコラージュいたしました

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 古川 勝紀

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

まかない・II

Year of realization 実現（予定）年：

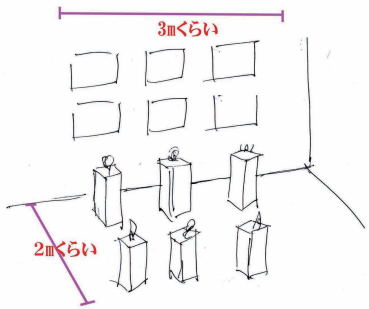
Description プロジェクトまたは作品についての記述：

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 石崎幸治（いしざきこうじ）

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 実写全方位視点像

Year of realization 実現（予定）年： 2019年

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

この作品のテーマは見る人を惑わせる不思議な写真の世界を作ることです。独自の視点と工夫でまだ誰れも撮影したことがない写真を撮ることができたと思っています。

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 石 上 城 行

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：「 記憶をつなぐ庭（仮）」

Year of realization 実現（予定）年： 2025年

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

2025年の万国博覧会の開催地が大阪に決まった。今回の博覧会のテーマがどうなるかは判らないが、おそらく世界と人類の未来を示唆するテーマになることは想像に難くない。そこで私は、この催し全体を象徴する体験型のアート作品を提案する。

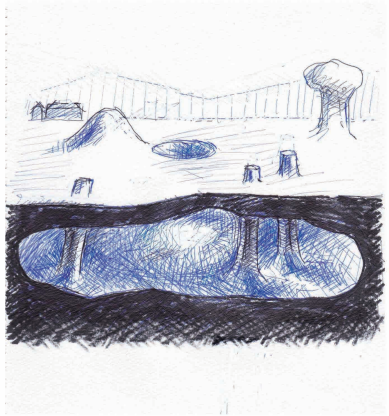
「記憶をつなぐ庭（仮）」は、地上と地下のふたつのディメンションを持ち、それぞれに人の記憶を示唆するオブジェクトを実態物（リアル）として点在させるとともに、時おり立体映像（VR）による人物像が出現する仕掛けを用意する。人物像は当日現場で鑑賞している自分自身の姿から生成したもので、様々スケール感で唐突に出現する。鑑賞者は、作品の内部に入って地上と地下を回遊しながら自身の記憶を振り返るとともに、先人たちの記憶に思いを馳せる。当然、楽しい記憶ばかりではなく、辛い記憶と向き合うこともあるが、時おり出現する人物像（自分自身）との遭遇から様々な記憶に正対する感覚と力を刺激したいと考えている。

この一連の仕掛けは人が人によって救われる様子を模したもので、自身の周りの事象を素直に受けとめることができる“フツウの人”への過程を疑似体験することを目的としている。願わくは、本作の鑑賞体験を通じて未来と対峙する知恵を多くの人々と共有したいと願っている。

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos, models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢の(レ)シート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 加藤 典子

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

『美を逆なで』

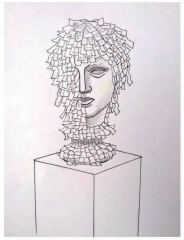
Year of realization 実現（予定）年： 2019 年 1 月

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

あなたにとって美とはなに？

来場者に「自分の持っているたわいもないレシート」を西洋美の象徴とも言える石膏像に貼ってもらう。

そしてそれぞれの美の受け止め方に想いを馳せて欲しい。



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 加藤 典子　神尾 真弓

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

『クシャモゾ・オノマトペ』

Year of realization 実現（予定）年： ２０１９年１月

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

ギュッギュッ	雪
ザクザク	霜柱
パリパリ	氷
パキパキ	ドングリ
キシキシ	イス
ワシャワシャ	紙

つかむ、踏む、つぶす、ゆらす、丸める…
身体で奏でる音色とリズム…。様々な情景がよみがえる。
ふとした場所で見つけたひそやかな音、感触にときめいたあの幼いころ。
日常に潜む非日常から楽しさを発見する才能は、生まれた時から全ての人が持っていた。

あの楽しさと最後に会ったのはいつだっけ？……

※「オノマトペ」とは物が発する音や声を真似て字句で描写した語句などのこと。
「サラサラ」「ピリピリ」「ガシャーン」など

SMF
Sadoma Music Forum

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

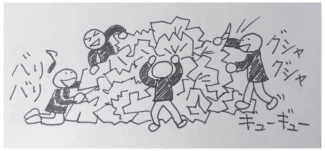
『クシャモゾ・オノマトペ』
インスタレーション内容

クシャクシャと大まかにつぶした大量の紙の山を床に直に積み上げておく。
紙はゆるやかに接着し、１枚ずつに離れないようにしておく。

参加者は手や足を使って好きなように紙の山を押しつぶしたり、ひねったり曲げたり、尖らせたり凹ませたりしながら、その時に発生する音を楽しみつつ、自由に紙の塊を変形させていく。ただし、紙はやぶかないこと。
そうやって楽しんだ後、参加者はつぶした時刻、発生した音がどう聞こえたかを言葉にして、手を加えた紙の部分に書き込んでもらう。

徐々に作品は縮んで、参加者の感じ取った「オノマトペ」がたくさん書き込まれているというのが最終形態となる。

作品の形の変化を定点カメラで撮影し編集する。



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 『加藤こどもの造形教室』 加藤典子

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 『子どもの造形・アートのタネ、かも』

Year of realization 実現（予定）年： ２０１８年

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

……子どもの造形・アートのタネ、かも……

何を作ってもいい。
何を使ってもいい。
いつまで作ってもいい。
作り方に困ったらヒントを少し。
そうやって作ったアートのタネ、みたいな工作。

アーティストはみんなここを通って来た。
だけど全員アーティストにはなれないんだ…。
でもアーティストにならなくったって、いいさ。
大事なことはいっぱい学べる。
夢中になった時間の記憶を
たくさん携えて大人になろう。
もっと大きな夢中のために。

SMF
Sadoma Music Forum

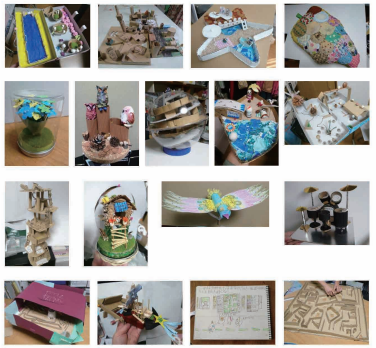
Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

『子どもの造形・アートのタネ、かも』
以下のような小中学生の作品を２０点前後展示します。（このほかに制作中の作品あり）



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：京穂（けいすい）

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

文字を楽しく、あなたのそばに。

Year of realization 実現(予定)年：未定

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

一番身近にあって、一番あなたの気持ちを表す
「文字」をあつめて1つの作品をつくりあげたいと
思っています。
1人1文字ずつ、文字を書いてもらって、1つの文章を
つくりたいです。
それぞれの個性を持ちながら、1つのことを成しとげる
ことができるというメッセージを込めています。
大きなキャンバスに大きく1文字 小さな文字で
文章を書きたいです。

SMF

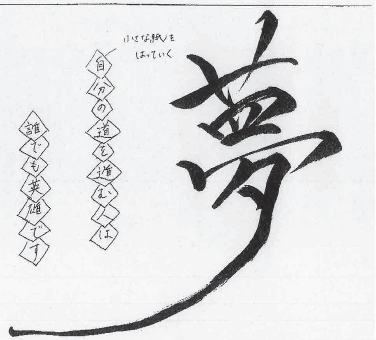
4/5

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



5/5

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：久保田ひかる

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

海

Year of realization 実現(予定)年：2018～2019

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

私は今まで生きてきて海にはほとんど行ったことがありません。
そんな私が海について思いを馳せて描きました。
私の記憶の中で混ざり合った海です。

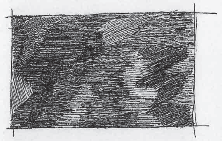
SMF
Saitama Muse Forum

Other remarks 備考：

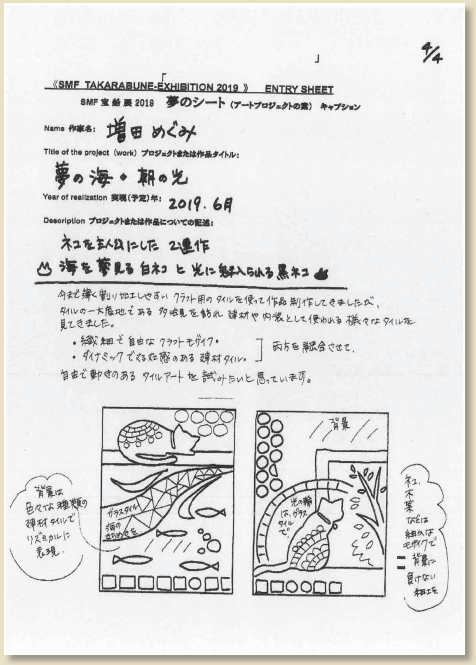
《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



久保田ひかる



4/4

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 夢のシート（アートプロジェクトの素） キャプション

Name 作家名: 増田 めぐみ

Title of the project (work) プロジェクトまたは作品タイトル:

夢の海・朝の光

Year of realization 実現(予定)年: 2019. 6月

Description プロジェクトまたは作品についての記述:

ネコを主人公にした 2連作

海を夢見る白ネコ と 光に魅入られる黒ネコ

今まで薄く割り加工しやすい クラフト用のタイルを使って作品制作してきましたが、タイルの一大産地である 多治見を訪れ 建材や内装として使われる様々なタイルを見てきました。

・緻細で自由なクラフトモザイク。
・ダイナミックでさる迫感のある 建材タイル。

両方を融合させて、

自由で動きのある タイルアートを試みたいと思っています。

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名: SYUTA(三友周太)＋Mike Saijo

Title of the project (work) プロジェクトまたは作品タイトル:

Plato's Cave (Social Capitalism) =プラトンの洞窟(資本主義社会)

Year of realization 実現(予定)年:

2020 年 (埼玉国際芸術祭に関連してワークショップの開催と展示を目指します)

Description プロジェクトまたは作品についての記述:

Plato's Cave (Social Capitalism)は SYUTA(三友周太)とロサンゼルス在住の日系二世 Artist の Mike Saijo(マイク・サイジョウ)が実施するアートプロジェクトです。
2018 年の秋に 2 人のコラボレーションで生まれた作品で、Mike が日本で出会った人達の似顔絵を透明なシートに描き、それを SYUTA がホイール状に組んだフレームにはめ込み、吊るして回転させスポットライトを照射してその影を壁に投影します。
タイトルの Plato's Cave は古代ギリシアの哲学者プラトンの提唱した「プラトンの洞窟の比喩」を模した作品です。
ホイールにはコミュニティ毎の肖像画をはめ込み、異なるコミュニティ毎に複数のホイールを作成して、同一の空間に吊るしてゆきました。肖像画のドローイングは別々の異なるコミュニティとして存在していますが、投影された像は同一空間の中で重なり合うことでの融合を図ります。
2020 年の展示では、県内でワークショップを開催しながら参加者により制作された作品と、参加者の肖像画を描いて展示をしてゆく計画です。
ワークショップを行ったコミュニティ毎にホイールを作成し、複数のホイールを天井からつるします。それぞれのホイールはスポットライトから照射された光から投影された像で一つの空間を埋めてゆきます。回転するホイールから映し出される映像は走馬灯のように巡り空間全体に動きを作り出します。

SMF
Saitama Muse Forum

Other remarks 備考:

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

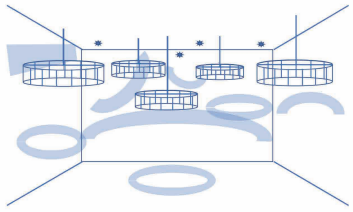
SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images (drawings, photos,models) 参考図版(素描、写真、模型など):

参考画像

1, 2, Plato's Cave (Social Capitalism) Art Lab Akiba (東京/2018)
3, トレインミュージアム(ワークショップで製作された作品) アリット(入間市/2018)

2020 年 展示イメージ



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 宮野内喜美

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 「 浮遊する 」

Year of realization 実現（予定）年： 2019

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

不思議な形に魅せられ

異次元の空間を身近なものを集めて表現してみました。

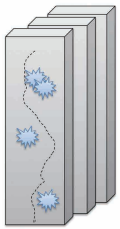
Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos, models）参考図版（素描、写真、模型など）：

3 箱を重ねて１つの作品とする



SMF
Sakaiya Muse Forum

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： みゃうか & 京穂（けいすい）

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 灯（あか）りの中（なか）の ことば

Year of realization 実現（予定）年： 2019年

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

現代アーティスト・みゃうか 書道家・京穂（けいすい）による
コラボレーション作品です。
百人一首のうたを和紙に書き、中から灯りを
照らし出すことで「古典」という少し固いイメージを
和らげ、優しく親しみやすさをあらわしました。
お互いいつもと違った作品に仕上がることを
楽しく思っています。立体物に書くという新しい
体験、灯りを入れることで映し出される文字を
見て触って感じていただければと思います。

SMF
Sakaiya Muse Forum

3/5

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

箱獅子で、獅子を舞う

Year of realization 実現（予定）年：2020年の宝舟展.

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

思い付たままです.
空のダンボール箱を使い、
金箔を貼り 獅子頭を作り、5〜6人で集団で舞う
振付は私が行なう。

中村元

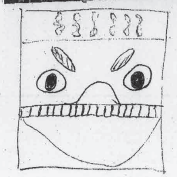
SMF

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019》ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



材料
① A4サイズのダンボール空箱
② シート状の金色紙
③ P.ヒモ 色白 髪の毛っぽい
④ 唐草文様の風呂敷 1枚

中村元

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：中村 隆

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：
3分スケッチング

Year of realization 実現（予定）年：今日から

Description プロジェクトまたは作品についての記述：
3分クッキングからヒントを得て、3分スケッチングを思いつきました。手元にコピックという画材があったので、使ってみました。実際には3分以上かかったものもありますし、3分以内で描いたものもあります。時間はとにかく、1日1枚、3日で3枚…。1年で365枚のスケッチができあがります。相当な枚数です。日々の慌ただしい中で、たった3分時間があれば！お湯を注いでカップ麺ができあがる間！ちょっと気分転換に！3分間の創造の海へ！

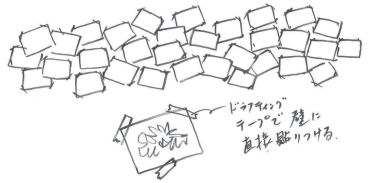
SMF

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019》ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《 SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 根岸 和弘

Title of the project (work) プロジェクトまたは作品タイトル：

脱フレーム

Year of realization 実現（予定）年： 2009～'16

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

色を帯状に調えこれを編み込み、さらに水玉模様を散らした、グラフルな平面作品、「色を編」は額に納る。

この完成した作品を起点とし、脱フレーム（内と外）の関係について試みる。

ほぐれた色の帯や水玉は開放され、床面の透明素材の「かご車」を彩る。そして屋外に展開するインスタレーションのチャンスを待ちます。

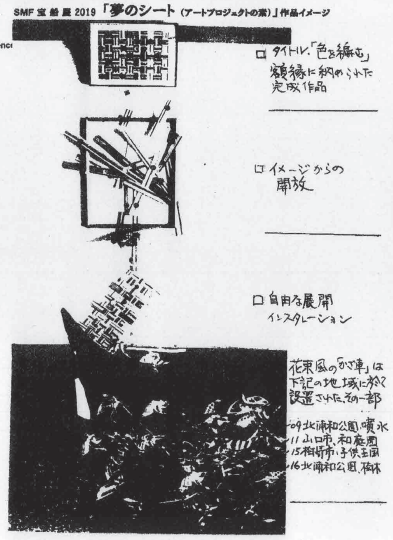
SMF

Other remarks 備考：

《 SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 根本賢 KEN Nemotto

Title of the project (work) プロジェクトまたは作品タイトル：

座ってごらんな菜

Year of realization 実現（予定）年： 2018～

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

私は自宅で製造業を営む家庭に産まれた。
工業用ミシンや様々な生地材料に囲まれて育った、
「シート屋の息子」ならではの作品をつくり続けている。

本作は、大学の芸術祭の展示企画にむけて制作したもの。

「もし野菜に座れたら…」
と着想し、実際にかたちにした。

野菜嫌いのこどもが野菜を身近に感じられるプロダクトとしても、野菜マニアのコレクションとしても需要があるのではないか。今後は機能や種類のバリエーションを増やして販売をしようと考えている。

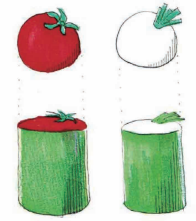
SMF

Other remarks 備考：

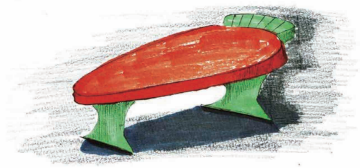
《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



※過去の展示風景



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 西尾路子

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

solid@plane://23 大・犬/2018

花 物 語 三 話：miniature model

Year of realization 実現（予定）年： 2019

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

絵が椅子になる作品を創りつづけて２１年。初期は壁面に大きな絵を観せる形式でした。絵が実際の椅子になる訳だから、厚さも全て実物と同じにした方が良いと、2007 年から裏表の有る絵となりました。でも厚さのある木材って、どれだけ重たいのか分かります？ほんとうに重たいのです。それを展示するのはきっと大変ですね。作るのも体力が要りそうです。全て独りで制作していますので、薄い板の間に芯材を入れて中を空洞にして軽量化、吊り下げ展示が可能となりました。物には裏表があるように物事にも裏表があるようです。ましてや人間模様の裏表にうんざりしてばかりでは楽しくないですから、せめて作品は表も裏も愉快にしたいですね。まぁ～ワンコの数が裏表半端無くて……φ(.,)

「さて、ワンコは何匹いるのでしょうか！？」

生き物だから植物にもドラマがあります。香りを放つアナタが咲かせた花。花と向かい合い見つめ合う。絶望と希望と勇気と元気と癒しと、他者からいただける有難さです。

SMF
Sakurai Music Forum

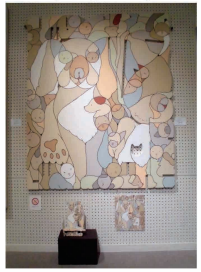
Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

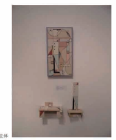
solid@plane://23 大・犬/2018



120×140 cm ＋立体

花 物 語 三 話：miniature model

花をテーマにした 1/5 模型の三作品が小さな舞台で共演



2015 年 18×26 cm ＋立体

2016 年 18×18 cm ＋立体

2018 年 18×26 cm ＋立体

手前の模型が除かれて実物大の椅子が加わる

《 SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」 キャプション

Name 作家名： 小野養豚ん

作品タイトル：とんちゃんまぁち
実現（予定）年： 2020
作品についての記述：
ジャンル ： 映像とパフォーマンス

大澤加寿彦作詞作曲の「とんちゃんまぁち」(2016)の曲に合わせて， 着ぐるみ隊が行進します．オタミラズディレクションによる「とんちゃんまぁち」MV をプロジェクターとスクリーンで上映します．着ぐるみ隊が「とんちゃんまぁち」に合わせて踊り， 劇を行い，閉幕という流れになります．映像とパフォーマンスによる作品です．

パフォーマンス以外の日の映像は， ループで上映します． 着ぐるみ作品も同時に展示します．

テーマ ：

生きるとか幸せとか平和というのは差別のない，いじめのない，何もない，何気ない日常のことをいうのではないでしょうか，子ブタ３匹とオオカミが中心となって繰り広げる「とんちゃんまぁち」の曲に合わせて行進し，小さな演劇と踊りを繰り広げます．

母豚と一緒に寝るという当たり前のことが子ブタ達にとって何気ない日常であり，幸せと平和であります．そこにやってくる悪者オオカミが弱い子ブタ達にイタズラをします．しかし，オオカミは，イタズラをされても笑って過ごし， イタズラをしているオオカミを逆に面白がっている子ブタ達に気がつきます． オオカミは，なんだか自分が馬鹿らしくなってきて，一緒に大笑いをします．そして，いつの間にか一緒にスヤスヤ寝てしまい，楽しい夢の中に入っていきます．様々なバックグランドを持つみんなが一緒に笑って過ごせるような思いを表現します．

このようなストーリーを背景としたとんちゃんまぁち MV をバックに映像から抜け出てきた３匹の子豚たちとオオカミ、その仲間達がパフォーマンスを行います．

関係者一覧
企画： 小野養豚ん
MV ディレクター： オタミラムズ
パフォーマンス・着ぐるみ隊
（オオカミ１名，子ブタ３名，精霊１名，ほか）

Other remarks 備考：

《 SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」 作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

MV 撮影・合成編集制作中

□ SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート （アートプロジェクトの素）」 キャプション

Name 作家名： 電子音響ピープルプロジェクト / Denshi Onkyo People Project

Title of the project（work） Imaginary Sphere international version（仮称）

Year of realization 実現（予定）年： 2020-2021

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

Imaginary Sphere (sound installation) は、2017 年から 2018 年にかけて、ドイツのカールスルーエメディアアートセンター(ZKM, Zentrum für Kunst und Medien, Karlsruhe)で作成しました。この作品は、2015 年から 2016 年にかけて実施した電子音響ピープルプロジェクトのワークショップの 85 名の参加者の完成作品を元に、柴山拓郎が、空間内に配置された 8 個から 43 個のスピーカーに対し、この作品を構成する音の断片をディフューズするためのプログラムを作成しました。

この作品では、いわゆる「コンピュータ音楽作品」を、可聴的な側面と不可聴的な側面との双方で抽象化する試みです。

可聴的な側面としては、音のシーケンスが空間的に散逸され、かつ、同一のサウンドファイルを同時再生する 3 つのユニットが、それぞれのユニット内の個々の音の断片に対して、再生速度と音程を変調させることで、ズレを生じさせます。このズレと、それぞれのユニットのシーケンスを空間的に散逸させていくことで、可聴的な側面を抽象化することを試みました。プログラムには、大村英史・廣野敏行の両氏との共同で開発した、ある出来事の生じやすさの指針でもある、情報エントロピーをコントロールする数理モデルを使っています。

また、非可聴的な側面の抽象化は、85 名のワークショップ参加者の皆さんの完成品を使うことにより、「この作品の作者は誰なのか？」ということを判断しづらくしている方法で実現しています。現在私達が考える「アーティスト像」というのは、長い人類の歴史の中でみればごく最近のごく限られた時間のなかでの常識にすぎないのではないか、そして、私達が「あこがれるべきアーティスト像」がどのような過程で創り出されているのか、ということを根本から再考することがこの作品の非可聴的な側面を抽象化する目的です。

これら双方の側面を抽象化することで、新たな創造的フィールドの創生を指向する土台を構築することを念頭にこの作品は創られているといえます。

Imaginary Sphere (international version) (仮称)は、柴山拓郎が現在、ZKM および州立カールスルーエ造形芸術大学 (Hfg, Staatliche Hochschule für Gestaltung) と進めている、電子音響ピープル@Germany (2019) の後、オランダ、フランス等での実施も実現し、日本をはじめ各国の参加者との輪になる象徴的な作品として拡張する夢の企画です。

Other remarks 備考：

□ SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート （アートプロジェクトの素）」 作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

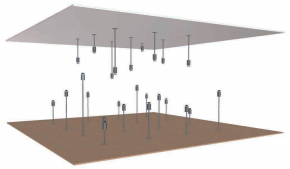


図 1. 25 スピーカー使用時のプラン

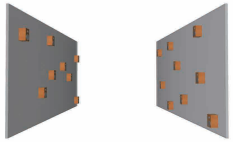


図 2. 16 スピーカー使用時のプラン

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート （アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 清水和乃

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 「 sailing 」

Year of realization 実現（予定）年： 2019

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

「次の新しい視点に向かって船出をする」

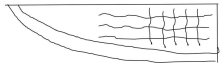
古代 ケルト民族が海を渡って新しい原野に向かっていったイメージ

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート （アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos, models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： シミズフローラルデザインスクール

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 「 記憶 」

Year of realization 実現（予定）年： 2019

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

各自が作ったコラージュ作品に心の色を組み合わせた作品を

パネルに展示する

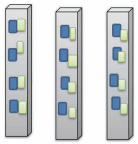
SMF
Saitama Muse Forum

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos, models）参考図版（素描、写真、模型など）：



SMF
Saitama Muse Forum

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 蒼澤 侑

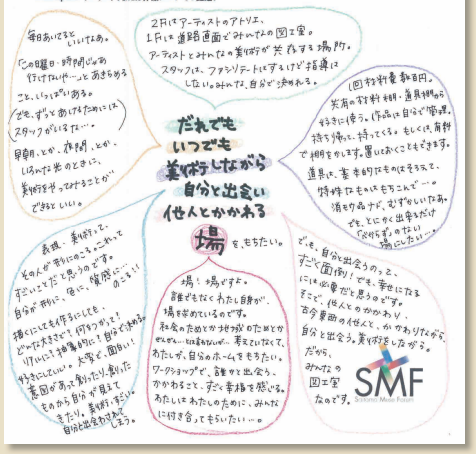
Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

わたしは わたしという条件を 生きている

―"みんなの"アトリエで"わたし"をみつける、まちの図工室。―

Year of realization 実現（予定）年： 2019年以降

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

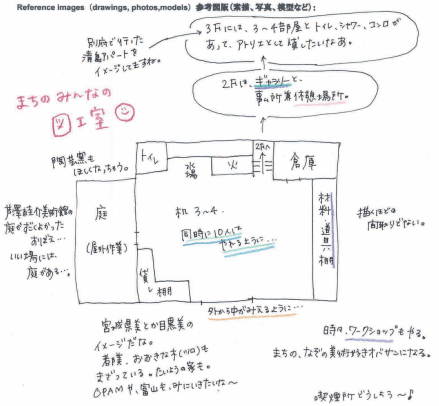


Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの業）」キャプション

Name 作家名：

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

Year of realization 実現（予定）年：

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの業）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの業）

キャプション

Name 作家名： suzu

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：毎日ユニコーン

Year of realization 実現（予定）年：ずっと

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

ユニコーンには夢や願いを叶える力や癒しの力があると言われている。

夢や願いを叶えたいと願っている誰かのために。

実現する勇気や力を。

元気がないあなたには。

優しく包み込む愛を。

ひとりじゃないと気づいてもらえるように

ユニコーンを描き続ける。

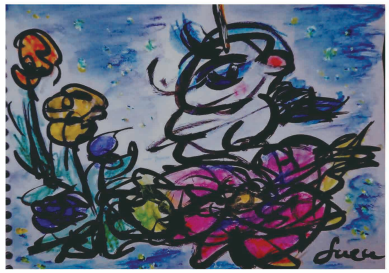
Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの業）

作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 田中 清隆

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：遺影シリーズ

方法装置＝ヒカリとカゲを楽しむ装置　触ることにより交遊装置とも言う

Year of realization 実現（予定）年： 展開中

Description プロジェクトまたは作品についての記述：「ヒカリ」と「カゲ」の楽しみ方、遺影シリーズ
「あるもの」＝物体を「ヒカリ」で照らすと「カゲ」が現れます。「ヒカリ」から物体の距離・方向・角度により、長く・短く、厚く・薄く、伸びて・縮んで「カゲ」の表情が変わります。単純な「モノ」から現れる不思議な「カゲ」を探し、見つける、装置。触って参加する作品を、ぜひ、ご覧ください。

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

《 SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 日本庭園協会 埼玉県支部

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

向月台

Year of realization 実現（予定）年： 2020

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

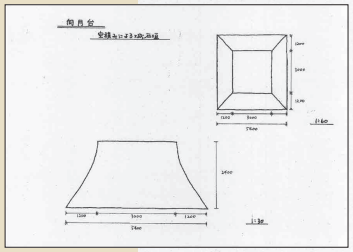
石の存在 そのものに そのものの 持つ力を
感じます。 異教の念ともいえると 思います。
その自然の石のもつ 力に対して、多くの職人の
手間をかけ 対峙すること なく、調和し、より
力強い、また 美しい作品を 作りたいと 思っています。

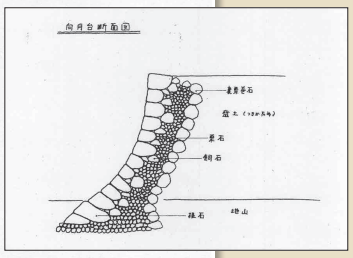
Other remarks 備考：

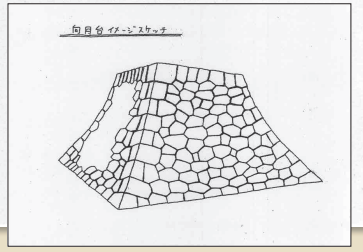
《 SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：







《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：社会芸術／ユニット・ウルス[連絡先：長谷川千賀子]
安部大雅、蒼浩人、渋田廣文、長谷川千賀子、森山哲和、吉田富久一　６名）

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

「沃土プラント」SMF宝船2019―"野良の藝術へ向けた前哨"または"ウエアハウスのオマージュ"

Year of realization 実現（予定）年：

２０２０年春

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

「沃土プラント」
SMF宝船2019"野良の藝術へ向けた前哨"
または"ウエアハウス千代田へのオマージュ"
社会芸術／ユニット・ウルス
メンバー：安部大雅、渋田廣文、蒼浩人、長谷川千賀子、森山哲和、吉田富久一

閉鎖した倉庫に残されたパレットは、用途を失って廃物となる運命にある。ものを運ぶための器具は駆動機材が介在して機能するが、器具自体はなにも働きかけることはない。では、誰が如何に働きかけるのか。

廃棄物を彫刻としたジャンクアートが美術史で語られ久しいが、これもまた新たな廃物の増産とは言えまいか。今日、効率を求めるが故に放射能や農薬、化学肥料、遺伝子組換などが先行し、事情はより深刻となった。現代文明が生態系を蝕み、地球が壊滅するかもしれないからだ。生態系が崩壊すると、都市を支えた農が壊滅し、都市も自滅し廃墟と化す。

現実を打ち破り、新たな秩序への模索と創造が藝術である。ならば、人々が根源的な創造性に立ち戻ることで必然的に解答は得られよう。

そうだ、パレットを二段に六角柱の囲いに組み、中に堆肥を醸し、沃土からつくり直そう。我々は再び自然の求めに応じ、野良の暮らしに導かれ、有機農に目覚める。

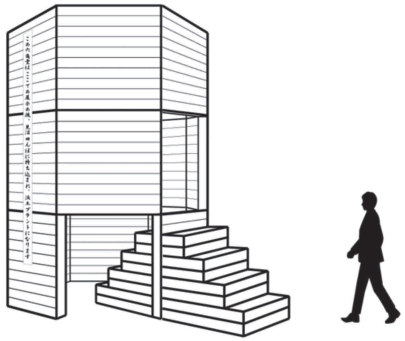
囲いの一ヶ所に内外の出入りを可能にした窓を付けよう。つと、何処より三苗の民が現れ、百錬百姓の賑りに狂乱する。

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名：矢花 俊樹

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル：

「私を包む景色を外側から見つめると」

Year of realization 実現（予定）年：2019年

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

私は立ち止まり、景色を見ている。
その場で360°回転すると、景色に包まれている感覚となる。
もし、私を包み込む景色を外側から見ることができたなら、
どの様な感覚が呼び起こされるのであろうか･･･

360°撮影した写真を箱の外側面に転写する。
そうすることで、
箱の周りを歩きながら私を包む景色を見つめることができるのではないだろうか･･･

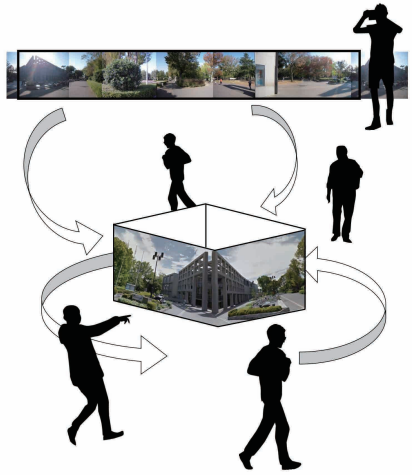
私を包む広大な景色を目の前に凝縮し、
ぐるっと眺める様は、
まるで幽体離脱した感覚と似ている。

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝船展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」キャプション

Name 作家名： 山口 素子

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 飛翔 ～大海原へ花船に乗って～

Year of realization 実現（予定）年： 3 年前に製作

Description プロジェクトまたは作品についての記述： 3 年前、友人が闘病していることを知りました。彼女が大きな不安を抱えながらも、大きな挑戦をし、克服しようと頑張っていることを知り、応援したい！と思いました。病気の治癒を願って作品を製作することにしました。 千鳥、青海波、菊の花など伝統的な和文様のモチーフを選びました。縁起の良いモチーフを使って、千鳥が（彼女が）花と一緒（心の支え）に大海原へ向かっていく（大きな挑戦）構図（姿）を考え（想像し）、精一杯に製作しました。この作品は、私自分にとってもタイルの様々なカット、和文様の配置、モザイク的な表現など、いろいろなチャレンジをしながら製作し、様々な願いや想いが詰まった作品となりました。今後も、吉祥紋様のモチーフをタイルで表現していきたいと、この作品を製作していく中で強く思うきっかけとなりました。

Other remarks 備考

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの素）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

□ SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート （アートプロジェクトの素）」 キャプション

Name 作家名： 横田龍堂

Title of the project（work）プロジェクトまたは作品タイトル： 『 Dot – Line Celebration 2019 』

Year of realization 実現（予定）年： 2019 年

Description プロジェクトまたは作品についての記述： 平成の元号が変わり、新元号になる年をお祝いする意味を込めた作品に仕上げようと思いました。材料は、廃材などを使い、いかにお金をかけずに楽しみながら作品を制作するかをコンセプトにしています。アーティストは高価な材料に手を出す傾向にありますが、そこを自制して制作しようと考えています。

□ SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019 「夢のシート （アートプロジェクトの素）」 作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの案）」キャプション

Name 作家名： 柳 賢淑 （ユ ヒョンスク）

Title of the project（work） プロジェクトまたは作品タイトル：Monologue

Year of realization 実現（予定）年：2018

Description プロジェクトまたは作品についての記述：私の心の物語り

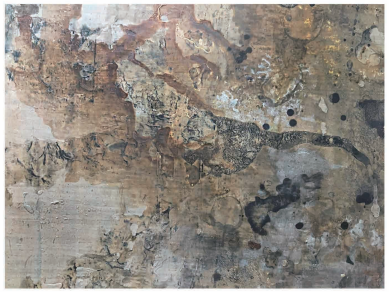
Other remarks 備考：

SMF Saitama Muse Forum

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの案）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの案）」キャプション

Name 作家名： みゃうか

Title of the project（work） プロジェクトまたは作品タイトル：

月のみつめる先

Year of realization 実現（予定）年：2019年

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

いつも見ている月をもっと身近に感じられるようにするため 抱きかかえられる月を作りました。

製作には和紙とLEDを使用しています。

SMF Saitama Muse Forum

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》 ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの案）」キャプション

Name 作家名： みゃうか

Title of the project（work） プロジェクトまたは作品タイトル：

埼玉県立近代美術館の謎

Year of realization 実現（予定）年：2030年位

Description プロジェクトまたは作品についての記述：

埼玉県立近代美術館には、吹き抜けになっている場所があり、その天井はガラス張りになっている。

なぜそういう構造になっているかというと、実はそこは、宇宙ロケットの発射場所になっているからなのです。

毎月、今月のイスと今月の美術品を選ぶのです。

宝船展にちなんで、ロケットは縁起物をモチーフとしました。

鯛のロケット、ひょうたんロケット、だるまロケット、ふくろうロケット。

来館者の1人は、まねき猫です。

将来的には実際に吹き抜けの場所にロケットを展示したいです。

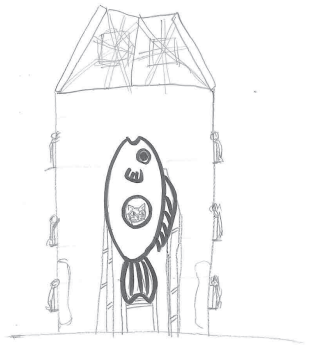
SMF Saitama Muse Forum

Other remarks 備考：

《SMF TAKARABUNE-EXHIBITION 2019 》ENTRY SHEET

SMF 宝 船 展 2019「夢のシート（アートプロジェクトの案）」作品イメージ

Reference images（drawings, photos,models）参考図版（素描、写真、模型など）：



あとがき

三浦清史

今年の仕掛けは「オープンスタジオ」、テーマは「想像の海へ！」…… Beyond The Reef か！（珊瑚礁の彼方へ）

毎日続く朝ドラだってアヴァンタイトルで前日のエピソードを繰り返しているのですから、昨年のあとがきと少なからず重複してもお許しいただけるだろうと甘えて書き始めました。

「まだ見たことも聞いたことも経験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指した活動をする」こんなマニフェストをかかげて、ぼくたちが 10 年以上楽しんできたＳＭＦも、昨年からは親離れをして成年期に入りました。

成人になれば子供をつくりたくなるのが大人（ひと）の常、というよりも男女共通の欲望、結果、ＳＭＦも可愛い息子（もしかしたら娘）を授かり、それが「宝船展」、新春のアンデパンダン展です。

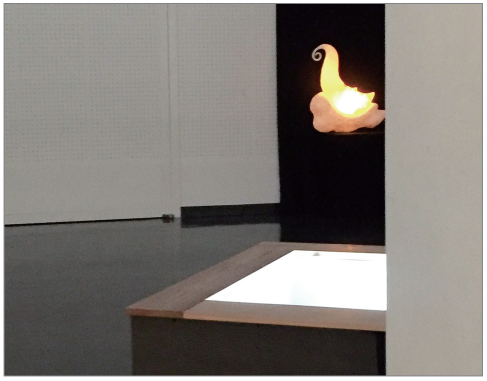
「かわいい子には旅をさせよ」の故事に倣ったからか、昨年は「場所と表現をめぐる旅」がテーマでした。今年はいよいよ「創造の海へ！」船出です。青山さんの「まえがき」によれば、そこは珊瑚礁の海、Bing Crosby ばりに Beyond The Reef でも口遊（くちずさ）みながらの出帆です。

しかし、「ラウンドテーブル」、「さんなすび展」、「アートのまつり」のＤＮＡを受け継いだやんちゃな「宝船展」、出展者たちはそんなテーマにはお構いなく自由奔放、昨年を超えた作品数の揃い踏み。そのほか、鳴り物入りの獅子舞を皮切りに、いくつものパフォーマンスで大賑わい、会場入口際に設営されたオープンスタジオでは、作品製作を続けるＳＭＦアーティストたちの中へ、参加する入場者が押しかけます。そして「アーティストおみくじ」で平成最後の新春の運試（うんだめ）し、前後左右の作品の間を練り歩くと奥に暗く怪しげな部屋が、そこでは魅力的な灯りや影の作品に隠れて、炉端と見紛う井戸底にまだ見ぬプロジェクトの夢が秘かに映しだされていました。そうそう、恒例のラウンドテーブルも青山さんのリードでその井戸端で行われ……と、今年も盛りだくさんの宝船展でした。

■

いずれこの記録集も「アート長屋」に収蔵されます。「アート長屋」もぼくたち SMF が運営するアンデパンダンのインスタレーションで、アートに関心をもつ誰でもが、ネット上の長屋に敷金家賃なしで部屋を借り、そこで自分の作品や夢を表現することができる仕組みになっています。この長屋には隣接して「アート物置」と呼ばれる蔵が建ち、そこには書架もあり、この記録集をはじめ様々な作品、報告がしまわれたアーカイブズでもあります。長屋には井戸もあり道行く人も入居者たちもそこに集い、住戸の作品や蔵の中から話の種を引っ張り出し井戸端会議に花が咲く、そんなヴァーチャルコミュニティを目論（もくろ）んで発足した「アート井戸端」でしたが、まだ充分に活用されているとは言えません。

年にいちど、アートを表現する側ばかりではなく、企画する側、楽しむ側、様々な立場から、相対（face to face）で、作品を語り、夢を語り、思いを語り合うひとときを持つ「ラウンドテーブル」、「宝船展」はこの「ラウンドテーブル」と「アート長屋」を両親として産まれたインスタレーションで、昨年の「あとがき」によれば「アート長屋」が母親です。



■

結局、昨年の常体を敬体に代えたプロローグシーンだけで終わる「あとがき」になってしまいましたが、出展者の方々、会場に来て下さった方々、そして一緒に主催をして下さった埼玉県立近代美術館のご厚意に、SMF 一同 厚く御礼申し上げること、この感謝の気持と、来年も参加協力してくださるに違いないというぼくらの期待こそが、この「あとがき」の本分だとして筆を（というよりタブレットを）置くことにします。

■ 幼年期（PRE SMF 時代）

2002 年　ヒアシンスハウスをつくる会、発足
2004 年　ヒアシンスハウス竣工
2006 年　さいたまアート懇話会
2007 年　さいたまアートフォーラム研究会

■ 少年期

2008 年度　SMF 発足
平成 20 年度 文化庁「芸術拠点形成事業」（ミュージアムタウン構想の推進）
LINK! ミュージアムからアートの風を !!「風の記憶」…… アート竜巻フェスタ 2008
2009 年度　平成 21 年度 文化庁「美術館・博物館活動基盤整備事業」
SMF アートのわっ！「風の行方」…… あつまれアートのつむじ風 2009
2010 年度　平成 22 年度　文化庁「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」
交差する風 織りなす場「風の軌跡」…… SMF アート楽座・アートバンク 2010
2011 年度　平成 23 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）
Saitama Art Platform 形成準備事業「つながる Heart Art」
2012 年度　平成 24 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）
Saitama Art Platform 形成準備事業「ひろがる」

■ 青年期

2013 年度　SMF の組織化
（会則の作成、会員の会費による運営、フォーラムの開催とフォーラムの決議による運営）
2014 年度　平成 26 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
あなたとどこでもアート「小さな家プロジェクト」（衣・食・住をテーマにした３年計画の初年 「住」）
「アート長屋」建設
「アートのまつり」開催
2015 年度　平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「着がわりプロジェクト」（衣・食・住をテーマにした３年計画の２年目「衣」）
「アート長屋」入居開始
「宝船展Ⅰ」開催
2016 年度　平成 28 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「おかわりプロジェクト」（衣・食・住をテーマにした３年計画の最終年「食」）
「宝船展Ⅱ」開催
さいたまトリエンナーレ 2016 に参加
「SMF 学校」運営

■ 成年期

2017 年度　組織化された SMF の自立した活動の初年
「宝船展 2018 @ MOMAS」開催
2018 年度　親ばなれして自立しようとすれば、それなりに忙しい。
大宮アートフェスティバル 2018 で「ＳＭＦアートパーク」開催
入間市博物館では SHUTA さんのワークショップに柴山さんの
「電子音響ピープル」、北浦和の商店街に光るきたうらワンが
現れたり、ハロウィンで「変身×自分仮面を作ろう」等々……

SMF Saitama Muse Forum

この「宝船展 2019 @ MOMAS」が終わっても、休む間もなく MOMAS の扉が待っている。